

学 習 要 項

第4学年

2013

東京女子医科大学

看護学部

目 次

東京女子医科大学の建学の精神、大学の理念	1
看護学部教育理念、教育目的、教育目標、第4学年教育目標	2
授業科目および単位数	3
臨地実習における個人情報保護に関する指針	7

科目別到達目標、講義スケジュール

人間の本質を問う

人間援助論Ⅱ	13
女性論	16

生活している人間の環境

疫学	19
医療行政・関係法規	22
文化人類学	26
人間生活と法	29

健康障害と生活の調整

保健医療行動科学	33
医学特論	36

働きかけの基本 看護活動

地域看護学実習Ⅱ	41
精神看護学実習	45
統合実習Ⅰ	48
統合実習Ⅱ	50
コミュニケーションの理論と実際	52

人間性を育む

英語Ⅲ	55
英語Ⅳ	58
パフォーマンス芸術論	62
国際関係論	65

各専門領域への発展

リエゾン精神看護	69
キャリア発達論Ⅳ	71
卒業論文	74
国際看護	76
先端医療における看護	78

養護教諭一種免許課程

教職実践演習	81
学校保健管理論	83
養護実習	86
日本国憲法	89

第4学年授業担当教員	93
------------	----

カレンダー

東京女子医科大学

I. 建学の精神

東京女子医科大学は、1900年（明治33年）に創立された東京女醫學校を母体として設立された。東京女子医科大学の創立者である吉岡彌生は、1952年（昭和27年）新制大学設立に際し、東京女醫學校創立の主意をもって建学の精神とした。その主旨は、高い知識・技能と病者を癒す心を持った医師の育成を通じて、精神的・経済的に自立し社会に貢献する女性を輩出することであった。新制大学設立時の学則には「医学の蘊奥を究め兼ねて人格を陶冶し社会に貢献する女性医人を育成する。」と記されている。

建学の精神に基づく医療人育成の場として、1998年（平成10年）度より新たに看護学部が新設された。医療を行うものが学ぶ学府として、現在の東京女子医科大学の使命は、最良の医療を実践する知識・技能を修め高い人格を陶冶した医療人および医学・看護学研究者を育成する教育を行うことである。大学建学の精神に基づき、大学教育では社会に貢献する女性の医療人を育成する。

II. 大学の理念

東京女子医科大学の使命を達成するための教育・研究・診療の基盤となる理念は、「至誠と愛」である。至誠は、「常住不断私が患者に接するときの根本的な心構えを短い二つの文字のなかに言い現したもの（吉岡彌生傳）」という創立者吉岡彌生の座右の銘であり、「きわめて誠実であること」「慈しむ心（愛）」は教育・研究・診療の総ての場において求められる。大学およびそこに学び働くものは本学の理念である「至誠と愛」に従って活動しなくてはならない。

看護学部の教育理念

本学部は「女性の社会的地位の向上と経済的自立を目指すと共に、至誠と愛の精神に基づき医療を行う人材を育成する」という創立者吉岡彌生の趣旨を受けつぎ、これを教育の基本理念とする。

本学部における教育は学生が自ら学び成長しようとする向上心を側面から支援することであると考える。それは、学生一人一人の個性を尊重する教師と、自ら学ぼうとする学生との真剣な相互作用の過程において創られるものである。

看護学部の教育目的

本学部は、建学の精神に基づき、変動する社会情勢の中で看護の役割を認識し、責任を自主的に果たし得る看護実践者を育成する。すなわち、いかなる状況下においても、医療倫理を遵守し、至誠と愛の精神に基づいて行動できる看護職者としての基礎を確立することを目的とするものである。さらに、本学部の教育は、看護の専門性を追求し、看護学の発展に寄与できるための基礎を養うものである。

看護学部の教育目標

看護はあらゆる健康のレベルにある人々を対象とし、それらの人々の健康レベルの向上を目指して援助を行うものであり、この援助活動は、人々の生活を尊重し、人間理解に根ざした関係を基盤として、継続的に行われるものである。看護は人間としてさけられない「生・老・病・死」とかかわりをもちながら、対象者との密接な人間関係を通して行われていくものである。したがって、看護者には豊かな人間性と科学的思考に支えられた創造的・主体的行動が求められる。

本学部は以下の教育目標を掲げる。

- 1) 豊かな人間性を養い、生活者としての人間を理解する基礎能力を養う。
- 2) 看護実践に必要な科学的思考および看護の基本技術を身につけ、人間関係を基盤として、健康問題を解決する能力を養う。
- 3) 社会情勢の変化に応じて、保健・医療・福祉チームの中で主体的かつ協調的に看護の役割を果たすとともに、現状を変革する基礎能力を養う。
- 4) 研究の基礎能力を養う。
- 5) 専門職者として自己の能力を評価し、自己成長のできる基盤を養う。
- 6) 国際的な視野に立って活動できる基礎能力を養う。

第4学年教育目標

1. 広範な知識を統合し、プロフェッショナルとしての自己の方向性を明らかにする。
2. 4年間の学習を総括し、さらなる発展にそなえる。

看護学部の授業科目および単位数

開講区分	授 業 科 目	単位数		コマ数	配当年次および単位数								卒業に必要な単位数	
		必修	選択		1年次		2年次		3年次		4年次			
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
人間の 本質を問う	心 理 学	1		15			1							1
	生物としての人間	2		15	2									2
	栄 養 代 謝 学	2		23	1	1								2
	人体の構造と機能	4		60	2	2								4
	人 間 発 達 論	1		8	1									1
	人 間 関 係 論	1		15				1						1
	生 体 の 化 学	1		8		1								1
	人 間 援 助 論 I	1		15	1									1
	医療における倫理学	2		15			2							2
	人 間 援 助 論 II		1	8								1		3
	哲 学		1	8	1									
	女 性 論		1	8								1		
	論 理 学		1	8			1							
	計	15	4	206	8	4	4	1	0	0	2	0		18
生活している人間の環境	生 体 防 御 機 構	1		15			1							1
	感 染 看 護	1		8			1							1
	疫 学	1		15								1		1
	医療行政・関係法規	2		30							1	1		2
	社 会 福 祉 学	1		15			1							1
	家 族 関 係 論	1		8					1					1
	文 化 人 類 学		1	8							1			3
	社 会 と 人 間		1	8			1							
	生 活 科 学 論		1	8	1									
	人 間 生 活 と 法		1	15									1	
	人 間 生 活 と 経 済		1	8				1						
史 学		1	8	1										
計	7	6	146	2	0	4	1	1	0	2	3		10	
健康障害と生活の調整	健 康 科 学 論	1		15					1					1
	薬 理 学	2		23			1	1						2
	病態学・概論	2		15		2								2
	病態学・各論Ⅰ（内科系）	4		60			2	2						4
	病態学・各論Ⅱ（外科系）	2		30			1	1						2
	病態学・各論Ⅲ（小児）	1		15				1						1
	病態学・各論Ⅳ（母性）	1		15				1						1
	病態学・各論Ⅴ（老年）	1		8				1						1
	病態学・各論Ⅵ（精神）	1		8				1						1
	人 間 工 学	1		8	1									1
	保 健 医 療 行 動 科 学	1		15									1	1
	リハビリテーション	1		8				1						1
	医 学 特 論		1	8									1	0
計	18	1	228	1	2	4	9	1	0	0	2		18	

開講区分	授 業 科 目	単位数		コマ数	配当年次および単位数								卒業に必要な単位数	
		必修	選択		1年次		2年次		3年次		4年次			
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
働きかけの基本 看護活動	看護学・概論	2		15	2									2
	基礎看護学・各論Ⅰ (生活援助論)	2		30	2									2
	基礎看護学・各論Ⅱ (診療に伴う援助論)	2		30		2								2
	基礎看護学・各論Ⅲ (看護過程論)	1		15		1								1
	成人看護学・概論	1		8			1							1
	成人看護学・各論Ⅰ (健康各期の看護)	2		23			2							2
	成人看護学・各論Ⅱ (専門領域の探求)	2		23				2						2
	フィジカルアセスメント	1		15			1							1
	老年看護学・概論	1		15				1						1
	老年看護学・各論	2		23					2					2
	小児看護学・概論	1		8				1						1
	小児看護学・各論	2		30					2					2
	母性看護学・概論	1		8				1						1
	母性看護学・各論	2		30					2					2
	地域看護学・概論	1		8					1					1
	地域看護学・各論	2		23					2					2
	精神看護学・概論	1		8				1						1
	精神看護学・各論	2		23					2					2
	在宅看護論	2		15					2					2
	基礎看護学実習Ⅰ	1		23	1									1
	基礎看護学実習Ⅱ	2		45		2								2
	成人看護学実習Ⅰ	2		45				2						2
	成人看護学実習Ⅱ	4		90						4				4
	老年看護学実習	2		45						2				2
	小児看護学実習	2		45						2				2
	母性看護学実習	2		45						2				2
	地域看護学実習Ⅰ	2		45						2				2
	地域看護学実習Ⅱ(保選)		4	90							4			0
	精神看護学実習	2		45							2			2
	統合実習Ⅰ	2		45							2			2
	統合実習Ⅱ	2		45							2			2
	健康教育学(養選)(保選)		1	15						1				0
コミュニケーションの理論と実際(養選)		1	15							1			0	
計		53	6	988	5	5	4	8	13	13	11	0	53	

開講区分	授 業 科 目	単位数		コマ数	配当年次および単位数								卒業に必要な単位数	
		必修	選択		1年次		2年次		3年次		4年次			
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
人間性を育む	フィットネスの理論と実技	2		30	1	1								2
	英 語 I - 1	2		30	1	1								2
	英 語 I - 2	2		30			1	1						2
	英 語 II	2		30					1	1				2
	英 語 III		2	30							1	1		
	英 語 IV ☆		2	30			(2)		(2)		2			
	ド イ ツ 語 I	2		30	1	1								
	ド イ ツ 語 II	2		30			1	1						
	フ ラ ン ス 語 I	2		30			1	1						
	フ ラ ン ス 語 II	2		30					1	1				
	中 国 語	2		30					1	1				4
	日 本 語 学	2		23	1	1								
	美 術	2		30	1	1								
	音 楽	2		30	1	1								
パフォーマンス芸術論	1		15										1	
国 際 関 係 論	1		8										1	
計	8	22	436	6	6	3	3	3	3	3	3	3	15	
各専門領域への発展	保健医療統計学	1		15				1						1
	情報科学演習Ⅰ	1		15	1									1
	情報科学演習Ⅱ	1		15				1						1
	リエゾン精神看護	1		8								1		1
	研究方法論	1		15					1					1
	キャリア発達論Ⅰ	1		15	1									1
	キャリア発達論Ⅱ	1		15			1							1
	キャリア発達論Ⅲ	1		15					1					1
	キャリア発達論Ⅳ	1		15							1			1
	卒業論文	1		15							1			1
	国際看護 ☆		2	30					(2)		2			0
	先端医療における看護		1	8								1		0
計	10	3	181	2	0	1	2	2	0	4	2		10	
合 計	111	42	2185	24	17	20	24	20	16	22	10		124	
				41		44		36		32				

(養選)は養護教諭一種免許を取得するための選択必修科目。

(保選)は保健師の国家試験受験資格を得るための選択必修科目。

ただし、健康教育学については3年次選択科目として全員が履修可能。

☆ 印については、海外研修参加年次に履修および単位の認定を行う。

(注) 英語Ⅲと英語Ⅳの重複単位認定はできない。

卒業に要する単位数

開 講 区 分	卒業に要する単位数		
	必修	選択	合計
人間の本質を問う	15	3	18
生活している人間の環境	7	3	10
健康障害と生活の調整	18	0	18
働きかけの基本・看護活動	53	0	53
人間性を育む	8	7	15
各専門領域への発展	10	0	10
計	111	13	124

前学期

4月 1日 ~ 10月 15日まで

後学期

10月 16日 ~ 翌年 3月 31日まで

(注)「人間性を育む」の選択科目は、語学から4単位以上、その他の科目から3単位以上を履修しなければならない。(詳細は学生便覧を参照のこと)

養護教諭一種免許課程に関する科目および単位数

授 業 科 目	単 位 数	コ マ 数	配当年次および単位数							
			1年次		2年次		3年次		4年次	
			前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
公衆衛生学	2	15					2			
疫学△	1	15								1
健康科学論△	1	15					1			
学校保健	2	15						2		
学校保健管理論	1	8								1
養護概説	2	15						2		
健康教育学	1	15						1		
コミュニケーションの理論と実際	1	15								1
栄養代謝学△	2	23	1	1						
人体の構造と機能△	4	60	2	2						
生体防御機構△	1	15			1					
薬理学△	2	23			1	1				
精神看護学・概論△	1	8				1				
精神看護学・各論△	2	23					2			
基礎看護学・各論Ⅰ(生活援助論)△	2	30	2							
基礎看護学・各論Ⅱ(診療に伴う援助論)△	2	30		2						
基礎看護学・各論Ⅲ(看護過程論)△	1	15		1						
成人看護学・各論Ⅱ(専門領域の探求)△	2	23				2				
成人看護学実習Ⅰ△	2	45				2				
母性看護学・概論△	1	8				1				
母性看護学・各論△	2	30					2			
小児看護学・概論△	1	8				1				
小児看護学・各論△	2	30					2			
小児看護学実習△	2	45						2		
地域看護学・各論△	2	23					2			
教職入門	2	15				2				
教育学概論	2	15				2				
教育心理学	2	15				2				
教育課程論	2	15				2				
教育方法論	2	15						2		
生徒指導論	2	15						2		
教育相談	2	15						2		
教職実践演習(養護教諭)	2	15								2
養護実習	5	113								5
日本国憲法★	2	15				2	(2)		(2)	
フィットネスの理論と実技△	2	30	1	1						
英語Ⅰ-1△	2	30	1	1						
情報科学演習Ⅰ△	1	15	1							
情報科学演習Ⅱ△	1	15				1				

★ 印については、2年次に履修しておくことが望ましい。

△ 印については、卒業に必要な必修科目。

東京女子医科大学看護学部

学生生活において接する情報の取り扱いに関する指針

教務委員会

はじめに

学生の皆さんは、学生生活において様々な質の情報に接します。ここでは、そのうち以下の2つの性質をもつ情報について、本学部における取り扱い上の基本的指針を示します。

A：個人情報保護の対象となる情報

B：著作権（知的財産権）保護の対象となる情報

学生の皆さんは、次のことを自分の責任においてよく理解したうえで行動して下さい。

1. その情報は、誰のどのような権利の元にあるものか
2. 自分は、なぜその情報を取り扱うことを許されているのか
3. どのような姿勢・態度で取り扱うことが、その人の尊厳や権利を守ることになるのか
4. その人の尊厳や権利を守るために、何を行ってはいけないか
5. その情報が本人の承諾なく第三者に流出した場合、誰がどのような不利益を被るか
6. 5に関する不利益につき、自分はその人および社会への責任を負うことができるのか

情報の取り扱いに関して、様々な教育場面において担当教員から注意・配慮すべきことを指導しますが、その都度の個別的な状況で判断できない場合は、必ず事前に教員に相談して下さい。皆さんの行為の結果、万が一著しく他者を傷つけたり悪質であると判断されたりした場合は、学内・外における処罰の対象となります。

A：個人情報保護の対象となる情報に関する取扱い上の指針

「個人情報」とは：

生存する特定の個人を識別できる情報（氏名、生年月日等、映像も含む）を指す。これには、他の情報と容易に照合することによって特定の個人を識別することができる情報および個人情報データベースも含む。

本学の個人情報保護に関連する規定・指針

ここで示されている指針は、本学の以下の規定に基づいている。

1) 学則第 11 章 学生に関する規定

(学生に関する規定)

第 36 条 個人情報保護に関する本学のガイドラインに則り、学生生活で得られる個人情報は学習の目的のみに利用し、これを生涯守秘することを義務とする。

なお、指示に応じてその都度所定の誓約書に署名するものとする。

2. 本学則の定めるもののほか、学生に関する規定を別に定める。

2) 東京女子医科大学における個人情報の保護に関するガイドライン

<http://160.24.252.1/images/infra/pdf/kisoku/kojinjouhouhogo-guideline.pdf>

(閲覧は学内からのみ可能)

3) 東京女子医科大学における情報公開の指針

<http://160.24.252.1/images/infra/pdf/kisoku/kojinjouhouhogo-guideline.pdf>

(閲覧は学内からのみ可能)

1. 学生生活一般において

1) 他学生・教員の個人情報を本人の承諾を確認せず、または本人の意図に反して第三者に渡したり外部に流出させたりしない。たとえ誹謗中傷でない内容であったとしても行ってはいけない。

2) インターネットは、そのまま世界中に向けて情報を発信しているという認識で取り扱う。一旦ウェブサイト等に掲載されてしまった情報は完全に削除することはほぼ不可能であり、自分の意図を離れて第三者にどのように利用されるかは不明であることを自覚しておく。(友達同士では冗談で済まされるような話でも、世間では「事件」になることがある。)

3) インターネットに接続している電子機器 (パソコン、スマートフォンなど) に個人情報を保存している場合は、次のことに注意する。

- ・パソコンを家族や知人と共有している場合、その人たちへの注意を促す
- ・ドキュメント共有ソフトと共存させない
- ・適時、OS やウイルス対策ソフトを更新する

4) インターネット上に他者についての情報を書き込むときは次のことに注意する。

- ・住所、仕事内容、家族構成、写真など
- ・所属している組織 (大学、アルバイト先など) に迷惑となること
- ・法律で禁止されていること

2. 講義・演習における場合

1) 講義・演習中の学生や教員を本人の承諾を得ず撮影しない。

2) 講義・演習中の学生や教員の個人情報を本人の承諾を得ずインターネット上に書き込まない。

3) 個別の状況に応じて、担当教員から指示があった場合にはそれに従うこと。

3. 臨地実習における場合

- 1) 記録物、資料には患者氏名、イニシャル等の個人が特定できる情報は書かない。
- 2) 記録物の提出はレポートボックスまたは教員への手渡しで提出する。
- 3) 実習終了後の記録類の保管は個人の責任で厳重に管理する。保管の必要がなくなった場合には、シュレッダーを利用し処分する。
- 4) 電子カルテは学生用のパスワードを用いて閲覧する。データを印刷してはならない。実習以外の目的で不正にアクセスした場合は本学懲罰委員会の規定に基づき処分の対象となる。
- 5) 診療録・看護記録等の閲覧は施設内の決められた場所で行う。
- 6) 患者の個人情報等(職員や組織に関することも含む)をブログや Twitter・Facebook・LINE などを通じてインターネット上に公開した場合は、本学懲罰委員会の規定に基づき処分の対象となる。
- 7) エレベータ、通路、公道で決して患者や院内の情報に関わることを話さない。
- 8) 電車内への置き忘れなど、実習記録・資料の紛失に十分注意する。記録物の紛失はインシデント扱いとなる。
- 9) 個別の状況に応じて、担当教員から指示があった場合にはそれに従うこと。

【参考資料】

- ・ 個人情報の保護に関する法律（略して個人情報保護法）：
消費者庁 HP から http://www.caa.go.jp/seikatsu/kojin/index_sub001.html
- ・ 医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイドライン
厚生労働省 HP から
<http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/seisaku/kojin/dl/170805-11a.pdf>

B：著作権保護の対象となる情報に関する取扱い上の指針

「著作権」とは：

著作物は、それを考え出した人の人権そのものという性質、文化の発展に寄与するという性質、経済的な財産としての性質を併せ持っている。著作者の人権や経済的な財産としての性質を保護することで、著作物の創作を促進し文化の発展に寄与するための権利である。

大学生活では、著作物や著作権に配慮しなければならない場面が数多くある。ここでは、特に以下の場面について基本的指針を示す。

1. 論文・レポートや研究発表

他人の著作物を利用したり、他人の意見を記載したりする場合は、次の「引用の原則」を守る。

- ・公表された著作物の引用であること
- ・論文等の引用として正当な範囲内であること
- ・引用部分が本文と明確に区別されていること
- ・引用部分が本文からみて従であること
- ・引用に必然性があること
- ・必要最低限の引用であること
- ・出典を明記すること
- ・勝手な改変を加えないこと

2. 図書館での書籍等のコピー

調査研究のために公表された著作物の一部分を一人につき 1 部だけに止める。コピーの範囲は、慣行として著作物の半分までとする。

3. 講義や授業での使用

1) 著作者の許諾がなくても著作物を利用する場合は、次の条件を満たした場合とする。

- ・授業を担当する教員やその授業を受ける学生自身がコピーすること
- ・授業を受ける学生数を大幅に超えない部数をコピーすること
- ・著作権者の利益を不当に害しないこと

2) 著作権者の許諾なしに、授業の様子をビデオ撮影、写真撮影あるいは録音したものをネット等で配信したり、DVD 等に記録して配布したりしない。

4. サークル活動や大学祭での使用

1) 次のような場合には、著作権者の許諾が必要になるので注意する。

- ・授業の一環としてではない営利を目的としない演奏会等に伴って歌詞コピー等の

資料を配布すること

- ・新歓ポスターや演奏会等のポスター等にアニメやマンガのキャラクターを使用すること
- 2) 正当に購入したビデオやDVDを利用した上映会は、営利を目的とせず、聴衆や観客から料金を受け取らないのであれば、著作権法上の問題はない。ただし、レンタルや上映を禁止しているものもあるので注意する。

5. 自己のウェブサイトでの使用、インターネット上の掲示板や動画投稿サイト

インターネット上のサイトといった新しいメディアであっても、著作権に関しては、書籍等の以前からあるメディアと同様の扱いとする。

【参考資料】

- ・公益社団法人著作権情報センター（CRIC）：<http://www.cric.or.jp/>
- ・京都教育大学現代 GP 2008 年 学生と教師のための著作権基礎知識：
<http://kyoshien.kyokyo-u.ac.jp/public/chosakuken/kisochishiki.pdf>

科目別到達目標
講義スケジュール

人間の本質を問う

〔人間援助論Ⅱ〕（選択科目）

科目責任者 福井みどり

目的

他者を理解しどうすることが援助になるかを学ぶ。理解すること、共感すること、支持すること、エンパワーすることなどについて学ぶ。援助を行う人の特色、援助される人のニーズ、お互いの関係性、それを満たす方法などを学習する。また、危機の状態、死や喪失、自死の予防などの危機状態について学び、そのような場合の援助行動について学ぶ。

到達目標

1. 自己概念を再構築し対人関係における自己の傾向に気づくことができる
2. 援助的人間関係を構築する方法について学び実践ができる
3. 人間援助の技法について看護学の視点から説明できる。
4. 危機の場合の援助について説明できる。

大項目	中項目	小項目
1 自己理解・他者理解	1. 援助者の特性	1) 援助の意味 2) 自己理解、自己一致、 3) 他者理解
	2. 援助者と被援助者との関係性	
2 援助技法	1. 理解のための援助技法	1) 共感すること 2) より深い共感 3) 明確化 4) 支持と援助
	2. 基本的な援助技術	1) エンパワーメント
	3. 発展的な援助技術	
3. 援助者の関係性	1. 看護師－患者関係	1) 援助という専門性 2) ニーズのアセスメント
	2. 患者のニーズ	
4. 危機	1. 危機と援助	1) 自死の防止 2) 生と死
	2. 擁護と援助	1) 擁護と援助 2) 喪失と援助

評価方法

出席状況、単元毎の課題達成によって評価を行う。

教科書

なし

参考図書

水野修次郎著	カウンセリング練習帳—人間関係システム視点—	おうふう	2009
ロバート・D・エンライト著	ゆるしの選択—怒りから解放されるために	河出書房新社	2007
岡本祐子編者	発達臨床心理学ハンドブック	ナカニシヤ出版	2010
日野原重明著	ナースに贈る 35 のメッセージ	日本看護協会出版会	2009
諏訪茂樹著	対人援助とコミュニケーション	中央法規	2010
平木典子著	アサーショントレーニング 改訂版	金子書房	2009
川嶋みどり	看護の力	岩波新書	2012
小西聖子	トラウマの心理学	NHK出版	2012
飛鳥井 望	「心の傷」のケアと治療ガイド	保健同人社	2010

<講義スケジュール>

1	2014.10.20	月	13:00～14:25	福井みどり	T E Gを使用した自己理解
2	10.20	月	14:35～16:00	福井みどり	援助行動における関係性と援助者の人間性
3	10.20	月	16:10～17:35	福井みどり	援助過程の理論と技術
4	10.28	火	13:00～14:25	福井みどり	援助技術（1）共感すること（2）明確化、質問
5	10.28	火	14:35～16:00	福井みどり	援助技術（3）支援と援助（4）エンパワーメント
6	11.14	金	13:00～14:25	福井みどり	援助者の関係性
7	11.14	金	14:35～16:00	福井みどり	援助専門職とは
8	11.14	金	16:10～17:35	福井みどり	援助と擁護（自死、生と死、喪失）

〔女性論〕（選択科目）

科目責任者 新井 浩子

目的

近年日本では、企業や地域、政治など様々な分野で女性が活躍している。この背景には、女性の人権と社会参画を推進してきた国内外の歴史がある。しかし実際の暮らしに目を向けてみると、育児や介護と仕事の両立が難しいなど、女性が自分らしく生きていくのが難しい現実がある。この授業では、現実の女性の働き方や暮らし方の現状と課題について情報提供をする。私たちの社会や生き方は“女性”“男性”であることにどのような影響を受けているのだろうか。そもそも“女性”“男性”であるとはどういうことだろうか。皆さんの経験や意見も参考に、考えていきたい。

到達目標

1. 社会的・文化的性差を表すジェンダー概念を知り、その視点で労働、家庭、社会を見直す。
2. 女性の人権保障に向けた歴史と男女共同参画社会について基礎的理解を得る。
3. ジェンダーおよび女性の人権という視点から、日本の女性の現状と課題について自分の意見を持つ。

大項目	中項目	小項目
I. 日本の女性の働き方・暮らし方の現状と課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 日本の男女格差 3. 男女格差の問題点と解消に向けた政策 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 今後の授業の進め方 2) 基礎的な用語の確認 1) 日本の男女平等度－ジェンダーギャップ指数 2) 政治分野の男女格差 3) 労働分野の男女格差 1) 災害時の女性のダメージ 2) 男女共同参画社会
II. 女性と労働	<ol style="list-style-type: none"> 1. 働く女性の現状 2. ペイドワークとアンペイドワーク 3. 今後に向けて 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 女子大学生の就業に関する希望と実態 2) M字型就業 1) ジェンダー概念 2) アンペイドワークとは 3) アンペイドワークの問題点 1) 有償労働と無償労働の分担
III. 家族について考える	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族とは何か 2. 多様な家族 3. 今後に向けて 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 家族の定義、核家族、基本的機能 1) ファミリーアイデンティティ 2) 国際家族年の取り組み 1) 家族は変化する 2) あなたが作りたい家族とは？
IV. 女性と社会保障制度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 女性のライフデザインと社会保障 2. 年金制度の課題 3. 社会制度とジェンダー 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 主婦と社会保障・税金 2) 社会保障制度の概要 1) 女性の年金制度の歴史 2) ライフサイクルの変化、女性の貧困
V. 全体のまとめ		

評価方法：講義へのコメントカードとレポート

教科書

特に指定しない

適宜プリント配布の予定

参考図書

伊藤公雄他編	女性学・男性学—ジェンダー論入門改訂版	有斐閣	2011
井上輝子 ^他 編	女性のデータブック 第4版	有斐閣	2005
B.エーレンライク ^他	魔女・産婆・看護婦	法政大学出版局	1996
A.H.ジョーンズ	看護婦はどう見られてきたか	時空出版	1997
リンダ・ブルム	フェミニズムと労働の間	御茶の水書房	1996
天野正子	転換期の女性と職業	学文社	1982
柏木恵子	子どもという価値	中央公論新書	2001
勝原裕美子	看護師のキャリア論	ライフサポート社	2007
ダナ・ベス・ワインバーグ	コード・グリーン	日本看護協会出版会	2004
二宮周平	家族と法（岩波新書）	岩波書店	2007
柏木恵子	子どもが育つ条件（岩波新書）	岩波書店	2008

<講義スケジュール>

1	2014.10.7	火	13:00～14:25	新井浩子	オリエンテーション、日本の女性の働き方・暮らし方の現状
2	10.7	火	14:35～16:00	新井浩子	日本の男女平等度、政治・労働分野の男女格差
3	10.14	火	13:00～14:25	新井浩子	女性と労働、職場における女性の状況
4	10.14	火	14:35～16:00	新井浩子	ペイドワークとアンペイドワーク、今後に向けて
5	10.21	火	13:00～14:25	新井浩子	家族について考える、家族の概念
6	10.21	火	14:35～16:00	新井浩子	多様な家族、今後に向けて
7	11.4	火	13:00～14:25	新井浩子	女性と社会保障制度
8	11.4	火	14:35～16:00	新井浩子	試験

生活している人間の環境

〔疫 学〕

科目責任者 山口 直人

科目担当者 山口 直人、岡本 高宏、清水 悟、
佐藤 康仁、清原 康介、蔣池 勇太、
福島 教照、古島 大資

目的

疫学概念と方法を理解し、これを集団に応用して、地域保健、地域看護に役立つ基礎的な能力を身につける。

到達目標

1. 疫学の歴史、目的と意義について説明することができる。
2. 有病率と罹患率の違いについて説明することができる。
3. 相対危険度と寄与危険度の違いについて説明することができる。
4. コホート研究と症例対照研究の利点と限界点について説明することができる。
5. 疫学研究に伴う誤差について説明することができる。
6. 因果関係を評価する際の基準について説明することができる。
7. スクリーニング検査の原理、敏感度と特異度について説明することができる。

大項目	中項目	小項目
疫学	1. 概念と方法	1) 歴史 2) 目的と意義 3) 疾病の自然史
	2. 疫学指標	1) 分母と分子 2) 率と比 3) 罹患率と有病率 4) 相対危険度、寄与危険度、オッズ比 5) 致命率、生存率
	3. スクリーニング	1) 原理 2) 敏感度と特異度 3) 偽陽性率と偽陰性率
	4. 記述疫学	1) 仮説の設定 2) 標準化死亡比 3) 年齢調整死亡率
	5. 分析疫学	1) コホート研究 2) 症例対照研究 3) 横断研究 4) 実験(介入)研究
	6. 疾病のリスクと要因	1) 危険度とその評価 2) 疫学で考慮すべき要因
	7. 疫学による意思決定	1) 根拠に基づいた医療
	8. 分子疫学	1) 最近の知見
	9. 疫学研究の誤差	1) 誤差と偏り(bias) 2) 無作為化 3) マッチング 4) 標準化

大項目	中項目	小項目
	10. 因果関係の評価 11. 疾病登録とサーベイランス 12. 人口統計・保健統計調査	1) 因果関係論 1) 現状 1) 人口統計の基礎 2) 動態統計と静態統計 3) 指定統計 4) その他の統計

評価方法：講義への出席、試験

教科書

なし

参考図書

日本疫学会監修	はじめて学ぶやさしい疫学－疫学への招待－2版	南江堂	2010
日本疫学会編	疫学－基礎から学ぶために－	南江堂	1996
日本疫学会編	疫学ハンドブック－重要疾患の疫学と予防－	南江堂	1998

<講義スケジュール>

1	2014.9.12	金	9:00~10:25	山口 直人	疫学の概念
2	9.12	金	10:35~12:00	清水 悟	疫学指標1.
3	9.19	金	9:00~10:25	清水 悟	疫学指標2.
4	9.19	金	10:35~12:00	清水 悟	疫学調査法1. 記述疫学
5	9.26	金	9:00~10:25	清水 悟	疫学調査法2. コホート研究
6	9.26	金	10:35~12:00	佐藤 康仁	疫学調査法3. 症例対照研究
7	10.3	金	9:00~10:25	古島 大資	介入研究
8	10.3	金	10:35~12:00	古島 大資	疾病のリスクと要因
9	10.10	金	9:00~10:25	清原 康介	因果関係の評価
10	10.10	金	10:35~12:00	福島 教照	集団検診の原理と方法(スクリーニング)
11	10.17	金	9:00~10:25	蔣池 勇太	分子疫学
12	10.17	金	10:35~12:00	清原 康介	疫学研究の誤差
13	10.31	金	9:00~10:25	佐藤 康仁	疾病登録とサーベイランス
14	10.31	金	10:35~12:00	岡本 高宏	臨床疫学・疫学による意思決定
15	11.7	金	10:35~12:00	山口 直人	試験

〔医療行政・関係法規〕

科目責任者 西田 幸典

科目担当者 西田 幸典、和泉澤 千恵

目的

看護者としての職責を正しく遂行するために心得ておかなければならない法の枠組み、および医療における行政の責務を理解することを目的とする。

到達目標

1. 法の構造・考え方を理解することができる。
2. 医療における行政の責務を、各種法令の規定から理解することができる。
3. 看護職の身分法（資格法）である保健師助産師看護師法の規定を理解することができる。
4. 医療従事者の業務などの法的枠組みを理解することができる。
5. 医療保険・介護保険制度の概要を理解することができる。
6. 公衆衛生の向上・維持を目的とする各種法規の概要を理解することができる。
7. 医療事故における法的責任を理解することができる。

大項目	中項目	小項目
I. 法というものの考え方	1. 法の構造 2. 法というものの考え方	1) 法の体系 1) 法解釈学 2) 法的責任の種類
II. 行政の仕組み	1. 三権分立	1) 厚生行政の仕組み
III. 医療スタッフの業務分担	1. 医療スタッフの業務分担に関する現行法の構造 2. 法令が定める業務 3. 業務独占 4. 名称独占 5. その他の規定	1) 医療スタッフとは 2) 医師を頂点とするタテ型の分担協力関係 1) 医療スタッフの業務の中身と医師の指示 2) 固有の業務と「診療の補助」としての業務 1) 独占している業務とは？ 2) 業務を独占する効果は？ 1) 名称を独占する効果は？ 1) 応招義務 2) 守秘義務 3) 記録と保存など
IV. 保健師助産師看護師法	1. 保健師助産師看護師法の構造と付属法令 2. 業務（Ⅲ. 2. に含める） 3. 試験 4. 免許 5. その他	1) 診療の補助 2) 療養上の世話 3) 保健師助産師看護師法 37 条 1) 受験資格 1) 免許の要件 2) 籍 3) 免許の取消し及び業務の停止など 1) 業務従事者届 2) 受胎調節の実地指導 3) 証明文書 4) 異常死産児の届出

大項目	中項目	小項目
V. 医療法	1. 目的 2. 理念 3. 定義 4. 医療施設の開設等 5. 医療施設の管理等 6. 医療施設の監督 7. 医療計画 8. 医療法人	1) 理念と責務 1) 病院・診療所・地域医療支援病院・特定機能病院 1) 許可と届出 2) 非営利性 3) 病床数・病床種別の変更等 1) 収容時間と収容人員 2) 掲示 3) 業務委託 4) 宿直 5) 各種の報告と管理者の義務 6) 人員配置基準 7) 医療施設の構造設備 8) 診療に関する諸記録等 9) 広告規制 1) 報告命令・立入調査など 1) 区域の設定、医療供給体制の確保 2) 医療計画の策定
VI. 薬事法規	1. 薬事法 2. その他の薬事法規	1) 薬事法が規定することとは 1) 毒物及び劇物取締法 2) 麻薬及び向精神薬取締法
VII. 労働法規	1. 労働基準法 2. その他の労働法規	1) 労働基準法が規定することとは 1) 労働安全衛生法、労働者災害補償保険法 2) 育児休業・介護休業 3) その他
VIII. 医療保険制度	1. 医療保険の分類 2. 保険者と被保険者 3. 保険給付と一部負担金 4. 保険料その他 5. 国民医療費の動向	1) 被用者保険と地域保険 2) 高齢者医療制度
IX. 介護保険制度	1. 保険者と被保険者 2. 保険給付 3. 介護保険給付の認定 4. 介護支援専門員	1) 要支援認定・要介護認定
X. 医療事故における法的責任	1. 法的責任の種類	1) 民事責任 不法行為・債務不履行、金銭賠償の原則、使用者責任、看護職賠償責任保険

大項目	中項目	小項目
X I. 感染症に関する法規	2. 労働者としての制裁	2) 刑事責任 刑の種類、罪の種類（医事法規違反、刑法違反、国家・地方公務員法違反）
		3) 行政責任 業務の停止・免許の取消し・戒告及びその手続き、再教育研修
		1) 懲戒処分（解雇など）
X II. 看護過誤判例	1. 感染症の予防および感染症の患者に対する医療に関する法律	1) 法律制定までの経緯 2) 感染症に関する情報の収集と公表 3) 患者に対する措置 4) 物件に対する措置 5) 特定の感染症対策(結核、新型インフルエンザ)
	2. 予防接種法	1) 定期・臨時の予防接種 2) 健康被害救済制度
	3. 検疫法	
X III. 医療情報の保護	1. 数件の判例の紹介	1) 判例が意味するところ
X IV. 診療記録	1. 医療における個人情報とは	1) カルテ情報、遺伝子情報など
	2. 個人情報保護法	1) プライバシーと自己決定 2) 個人情報取扱事業者
	3. 個人情報の利用	1) 手続き、包括的同意・個別同意
	4. 診療情報管理士	1) 法的根拠など（医療保険法、病院機能評価） 2) 業務
	1. 診療記録の法的根拠	
	2. 閲覧謄写請求権	
	3. 証拠保全	
	4. 保存期間	
	5. 医療裁判における診療記録の重要性	1) 診療録と看護記録

評価方法

定期試験、出席状況により評価する

教科書

森山幹夫 著 系統看護学講座 専門基礎分野 医学書院 2014
看護関係法令 第46版

参考図書

宇都木伸、平林勝政 編著 フォーラム医事法学 [追補版] 尚学社 1997
岩崎 榮 監修 実践の場で生かす看護関係法規 医学書院 1997
医療法制度研究会 監修 医療六法 平成26年版 中央法規 2013
甲斐克則、手嶋豊編 医事法判例百選 第2版 有斐閣 2014

<講義スケジュール>

1	2014.9.9	火	9:00~10:25	西田 幸典	法規の概念①
2	9.9	火	10:35~12:00	西田 幸典	法規の概念②、厚生行政の仕組み
3	9.16	火	9:00~10:25	西田 幸典	医師法・歯科医師法①
4	9.16	火	10:35~12:00	西田 幸典	医師法・歯科医師法②、薬剤師法
5	9.17	水	9:00~10:25	和泉澤千恵	医療保険制度①
6	9.17	水	10:35~12:00	和泉澤千恵	医療保険制度②
7	9.22	月	13:00~14:25	和泉澤千恵	医療保険制度③
8	9.22	月	14:35~16:00	和泉澤千恵	薬事法規①
9	9.24	水	9:00~10:25	和泉澤千恵	介護保険制度①
10	9.24	水	10:35~12:00	和泉澤千恵	介護保険制度②
11	9.30	火	9:00~10:25	西田 幸典	保健師助産師看護師法①
12	9.30	火	10:35~12:00	西田 幸典	保健師助産師看護師法②
13	10.7	火	9:00~10:25	西田 幸典	保健師助産師看護師法③
14	10.7	火	10:35~12:00	西田 幸典	保健師助産師看護師法④
15	10.21	火	9:00~10:25	西田 幸典	その他の医療従事者①
16	10.21	火	10:35~12:00	西田 幸典	その他の医療従事者②
17	10.30	木	9:00~10:25	和泉澤千恵	労働法規①
18	10.30	木	10:35~12:00	和泉澤千恵	労働法規②、薬事法規②
19	11.10	月	13:00~14:25	和泉澤千恵	感染症に関する法規①
20	11.10	月	14:35~16:00	和泉澤千恵	感染症に関する法規②
21	11.11	火	13:00~14:25	西田 幸典	その他の医療従事者③
22	11.11	火	14:35~16:00	西田 幸典	その他の医療従事者④
23	11.11	火	16:10~17:35	西田 幸典	医療法①
24	11.18	火	14:35~16:00	西田 幸典	医療法②、診療記録
25	11.18	火	16:10~17:35	西田 幸典	医療情報の保護
26	11.19	水	9:00~10:25	和泉澤千恵	感染症に関する法規③
27	11.19	水	10:35~12:00	和泉澤千恵	医療事故における法的責任①
28	11.26	水	9:00~10:25	和泉澤千恵	医療事故における法的責任②
29	11.26	水	10:35~12:00	和泉澤千恵	医療事故における法的責任③
30	12.9	火	10:35~12:00	西田 幸典	試験

〔文化人類学〕（選択科目）

科目責任者 穴戸 佳織

目的

文化人類学を学ぶ目的は、異文化を理解することによって自己の文化を相対化する視点を獲得することである。

世界的に人的・物的交流がますます盛んになっている現在、我々は生活の中のさまざまな場面で「異文化への遭遇」を余儀なくされている。看護の現場でも、文化的背景が異なる人々を避けて通ることはできない。

この講義では、第一に文化人類学の考え方を紹介し、次に異文化理解の具体的な方法であるフィールドワークの手法について触れる。文化理解の試みとして、様々な民族社会の親族構造と家族、遊びや儀礼、食文化や食生活など現実的な素材をとりあげて、人間の行動様式や心理様式を考察していきたい。

到達目標

1. 文化人類学を学ぶ意義について、説明できる。
2. 文化とはなにか、という問いについて説明できる。
3. 文化人類学史上の様々な視点について、それぞれ説明できる。
4. フィールドワークの持つ意味について説明でき、これを生活の中で応用することができる。
5. 人間がなぜ遊ぶのかを理解できる。
6. 親族と家族のさまざまなあり方を知り、親族や家族が我々の生活の中で持つ意味を理解できる。
7. 食文化と食生活の定義について、説明できる。
8. 食文化の文化的背景（例、宗教による戒律）などを理解し、生活の中で応用することができる。
9. 食習慣の定着化と食物の利用について、説明することができる。
10. 世界の中で、同じ飲料（例、茶）の様々な飲用法を知り、生活の中で応用することができる。

大項目	中項目	小項目
I. 文化人類学とは何か	1. 文化人類学の発展 2. 異文化理解 3. 文化人類学の視点	1) カルチャーショック 2) 文化の定義 3) 文化の比較 4) 自民族中心主義 5) 文化相対主義
II. 文化理解の方法	1. フィールドワーク	1) 文献調査 2) アンケート調査 3) ヒアリング調査 4) 参与観察法
III. 文化理解の実践	1. 遊び、芸術、神話、儀礼 2. 親族と家族のあり方 3. 食文化	1) 遊びの意義：事例、スポーツ 2) 芸術、神話、儀礼の意義：事例、演劇 1) 親族の定義 2) 世界の親族構造 3) 結婚の定義 4) 家族のあり方：事例、日本 1) 食文化と食生活の定義 2) 食物分類と選択 3) 食習慣の定着化 4) 食物の利用 5) 食の国際化の事例：事例、茶のグローバル化

評価方法

レポートと出席状況により評価を行う。

教科書

毎回、プリント等を配布する。

参考図書

E.A シュルツ・R.H ラヴェンダ

文化人類学 I、II

古今書院

1993/1995

秋野 晃司_他 訳

秋野 晃司編著

アジアの食文化

建帛社

2000

<講義スケジュール>

1	2014.9.11	木	9:00~10:25	宍戸 佳織	現代に生きる私達が人間の文化を研究する文化人類学を学ぶ意義について考える。
2	9.11	木	10:35~12:00	宍戸 佳織	文化理解の方法について概説を行う。特にフィールドワークについて、異文化調査を事例にして説明をする。
3	9.18	木	9:00~10:25	宍戸 佳織	遊び、芸術、神話、儀礼は人間が生きていくのにどうして必要であるかを、スポーツや演劇などを例にひいて検討する。
4	9.18	木	10:35~12:00	宍戸 佳織	親族、結婚、家族のあり方は文化によって異なる。それらを贈与と交換理論から考える。
5	10.2	木	9:00~10:25	宍戸 佳織	私たちの生活様式を理解するために、異文化社会を事例にしながら生産活動の生業について概説を行う。
6	10.2	木	10:35~12:00	宍戸 佳織	飲料がグローバル化していく過程について、日本、アジア各地およびヨーロッパにおける茶の飲用法の変遷を事例に考察する。
7	10.9	木	13:00~14:25	宍戸 佳織	比較文化論的視点から食文化について概説を行う。まず、食文化、食生活の定義を行い、次に食文化における宗教的なタブーについての理論をとりあげる。
8	10.9	木	14:35~16:00	宍戸 佳織	まとめ

〔人間生活と法〕（選択科目）

科目責任者 東 裕

現代社会で生活する中で、好むと好まざるとに関わらず法との関わりを避けて通ることは出来ない。とくに医療関係者においては医療過誤訴訟に巻き込まれるといった深刻な事態に至ることすらある。そこで、本講義では、我々が今日生活している現代社会がどのような社会であるかを概観し、その中で日常生活と関わりが深いいくつかの法律の基本的な仕組みと考え方を理解することを目的とする。そのために、法学を学ぶ上で重要な基本概念の説明から始め、憲法、民法、刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法、および労働法のしくみと基本概念について理解できるように解説する。その結果、現代社会の特徴、法学の基本概念（法源・成文法・不文法・実定法・自然法など）、および憲法、民法、刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法の構造（基本原理・主要規定・適用領域など）等を説明できることを到達目標とする。講義にあたっては、具体例を交えながら出来るだけわかりやすく説明し、受講者の理解度を確認しながら授業を進めたい。

目的

現代社会における日常生活と関わりが深い法の分野を取り上げ、現代社会の特徴とその中における人間生活のあり方、および人間生活に関わる法の世界の基本的なしくみと考え方を理解することを目的とする。

到達目標

1. 法と道徳の違いを明確に説明できる。
2. 国の法体系について簡潔に説明できる。
3. 日本国憲法の基本原理について簡潔に説明できる。
4. 人権とは何かについて説明できる。
5. 自由と平等について簡潔に説明できる。
6. 「新しい人権」とはなにかについて簡潔に説明できる。
7. 医療における「自己決定権」について説明できる。
8. 刑事裁判と民事裁判の違いについて簡潔に説明できる。
9. 財産法の基本原理について簡潔に説明できる。
10. 罪刑法定主義について簡潔に説明できる。
11. 労働基本権について簡潔に説明できる。
12. 事故の加害者の責任について簡潔に説明できる。
13. 医療分野でどのような法的問題があるか例を挙げて説明できる。

大項目	中項目	小項目
I. 法とは何か	1. 法の意義 2. 法の基礎 3. 法学とは	1) 社会生活と法 2) 法と道徳（強制力の違い） 3) 法学の分野と法解釈学
II. 法のしくみ	1. 法源 2. 成文法と不文法 3. 成文法の分類	1) 法源とは何か 2) 成文法・不文法とは何か 3) 国法秩序の体系
III. 憲法の基本原理	1. 国民主権 2. 平和主義 3. 基本的人権尊重主義	1) 国民主権の意味 2) 日本国憲法の平和主義の特徴 3) 基本的人権とは何か
IV. 人権の歴史	1. 市民革命 2. 近代立憲主義 3. 現代立憲主義	1) 権利保障と権力分立 2) 「国家からの自由」とは 3) 「国家による自由」とは

大項目	中項目	小項目
V. 自由と平等	1. 近代の自由と平等 2. 平等の意義 3. 平等権の内容	1) 自由とは・平等とは 2) 平等と不平等 3) 平等権の一般原則（憲法 14 条 1 項）
VI. 新しい人権	1. 「新しい人権」の登場 2. 「新しい人権」の種類 3. 「新しい人権」と裁判	1) 現代社会における人権 2) プライバシー権など 3) 法的に確立された「新しい人権」とは
VII. 自己決定権	1. 幸福追求権 2. 自己決定権 3. 患者の自己決定	1) 「新しい人権」の憲法上の根拠 2) 「自己決定権」に関わる判例 3) インフォームドコンセント
VIII. 自己決定権と裁判	1. 「エホバの証人輸血拒否」事件	1) 事件の概要 2) 判決の要旨 3) 自己決定権は認められたか
IX. 裁判のしくみ	1. 裁判所の組織 2. 裁判手続 3. 国民と司法	1) 裁判所の種類と三審制 2) 刑事裁判・民事裁判・行政裁判 3) 裁判員制度
X. 財産と法	1. 財産法の基本原理 2. 契約 3. 所有権	1) 所有権絶対の原則 2) 契約自由の原則 3) 過失責任の原則
XI. 犯罪と法	1. 罪刑法定主義 2. 犯罪の成立要件 3. 違法性と責任	1) 罪刑法定主義の意義と機能 2) 犯罪とは何か 3) 違法性・責任とは何か
XII. 労働と法	1. 労働法 2. 労働者保護法	1) 労働法とは何か 2) 労働基準法と労働契約法 3) 労働組合法と不当労働行為
XIII. 事故と法	1. 加害者の責任 2. 民事責任 3. 刑事責任	1) 刑事責任と民事責任 2) 債務不履行責任と不法行為責任 3) 不法行為責任の限界
XIV. 医療と法	1. 医療と法の関係 2. 医療訴訟 3. 生命をめぐる法律問題	1) 医事法の確立 2) 医療過誤（民事責任・刑事責任） 3) 人工生殖・安楽死・脳死
*まとめ	1. さらに法学を学ぶには 2. 試験	1) 参考文献・学習方法について 2) 到達目標の達成度をはかるための試験

評価方法：学科試験の成績で評価する。

教科書

使用しない。

参考図書

大森武子・山内義廣著『看護と法—人権・看護実践・現代医療』（医歯薬出版株式会社・2004年）

<講義スケジュール>

1	2014.9.8	月	9:00~10:25	東 裕	法とは何か
2	9.8	月	10:35~12:00	東 裕	法のしくみ
3	9.22	月	9:00~10:25	東 裕	憲法の基本原理
4	9.22	月	10:35~12:00	東 裕	国の統治機構
5	9.29	月	9:00~10:25	東 裕	平等権
6	9.29	月	10:35~12:00	東 裕	自由権
7	10.6	月	9:00~10:25	東 裕	参政権と請求権
8	10.6	月	10:35~12:00	東 裕	社会権
9	10.27	月	9:00~10:25	東 裕	裁判のしくみ
10	10.27	月	10:35~12:00	東 裕	財産と法
11	11.17	月	9:00~10:25	東 裕	犯罪と法
12	11.17	月	10:35~12:00	東 裕	労働と法
13	12.1	月	9:00~10:25	東 裕	事故と法
14	12.1	月	10:35~12:00	東 裕	医療と法
15	12.8	月	10:35~12:00	東 裕	試験

健康障害と生活の調整

〔保健医療行動科学〕

科目責任者 諏訪 茂樹

目的

行動科学とは、人の行動を総合的に解明し、予測・統御しようとする実証的な経験科学である。行動科学の歴史や方法について理解したうえで、健康と病気にまつわる行動科学研究の様々な成果を、時代及び社会のニーズや学習者の関心に即しつつ学ぶ。

到達目標

- 1．人間の行動を学際的・総合的な視点で説明できる。
- 2．保健・受療行動モデルに基づき、動機づけを強化する方法が説明できる。
- 3．利用者 医療者関係について説明できる。
- 4．看護師 医師関係や看護師関係について、説明できる。

大項目	中項目	小項目
・行動科学	1．行動科学とは 2．全人的アプローチ	1) 歴史 2) 対象 3) 方法 1) 身体的存在 2) 心理的存在 3) 社会的存在 4) 実存的存在
・保健医療行動科学	1．受療行動 2．利用者 医療者関係 3．医療者関係	1) 動機 2) 負担 3) 知覚 4) 目標 5) 信念 6) 規範 1) 病者役割 2) お任せとティーチング(指示と助言) 3) 自己決定とコーチング(支持) 4) 言葉づかいにみる利用者 - 医療者関係 5) ナラティブとエビデンス 6) 利用者の権利と医療者の義務 1) パラメディカル、コメディカル、 インター・プロフェッショナル・ワーク 2) 専門化と自立化 3) ピラミッド組織 4) 逆さまのピラミッド 5) ネットワーク

評価方法

授業の出席率と試験の結果で評価する。

教科書

特に指定しない

参考図書

山田一朗	系統看護学講座 基礎分野 行動科学	医学書院	1994
宗像恒次	最新 行動科学から見た健康と病気	メヂカルフレンド社	1996
S. ロルニック 他	健康のための行動変容 保健医療従事者のためのガイド	法研	2001
山田富美雄 監修	シリーズ 医療の行動科学	北大路書房	2002
津田 彰 編集	医療行動科学のためのカレント・トピックス		
高江洲義矩	保健医療におけるコミュニケーション・行動科学	医歯薬出版	2002
野口裕二	物語としてのケア - ナラティブ・アプローチの世界へ	医学書院	2002
J.O.プロチャスカ他	チェンジング・フォー・グッド ステージ変容理論で上手に行動を変える	法研	2005
諏訪茂樹	対人援助のためのコーチング - 利用者の自己決定とやる気をサポート	中央法規出版	2007
埼玉県立大学	IPW を学ぶ 利用者中心の保健医療福祉連携	中央法規出版	2009
諏訪茂樹	看護にいかすリーダーシップ 第2版 - ティーチングとコーチング、場面对応の体験学習	医学書院	2011

<講義スケジュール>

1	2014.10.1	水	9:00～10:25	諏訪 茂樹	行動科学とは（歴史、対象、方法）
2	10.1	水	10:35～12:00	諏訪 茂樹	全人的アプローチ（その1）
3	10.8	水	9:00～10:25	諏訪 茂樹	全人的アプローチ（その2）
4	10.8	水	10:35～12:00	諏訪 茂樹	受療行動（動機、負担）
5	10.15	水	10:35～12:00	諏訪 茂樹	受療行動（知覚、目標）
6	10.15	水	13:00～14:25	諏訪 茂樹	受療行動（信念、規範）
7	10.22	水	10:35～12:00	諏訪 茂樹	利用者－医療者関係 （病者役割、お任せとティーチング）
8	10.22	水	13:00～14:25	諏訪 茂樹	利用者－医療者関係（自己決定とコーチング）
9	10.29	水	10:35～12:00	諏訪 茂樹	利用者－医療者関係 （言葉づかいにみる利用者－医療者関係）
10	10.29	水	13:00～14:25	諏訪 茂樹	利用者－医療者関係（ナラティブとエビデンス）
11	11.5	水	10:35～12:00	諏訪 茂樹	利用者－医療者関係（利用者の権利と医療者の義務）
12	11.5	水	13:00～14:25	諏訪 茂樹	医療者関係（パラメディカル、コメディカル、I P W、 専門化と自立化）
13	11.12	水	10:35～12:00	諏訪 茂樹	医療者関係 （ピラミッド組織、逆さまのピラミッド、ネットワーク）
14	11.12	水	13:00～14:25	諏訪 茂樹	まとめ
15	11.19	水	13:00～14:25	諏訪 茂樹	試験

〔医学特論〕(選択科目)

科目責任者 齋藤加代子

科目担当者 齋藤加代子、上塚 芳郎、木林 和彦、
菅野 仁

目的

患者を受動的な治療対象者としてではなく、自己決定権を有する主体的な存在として把握した上で、全人的医療を目指すという視点に立って、先鋭化しつつある医療の諸問題について生命倫理 (Bioethics) 医事法学など社会的視点も含めて包括的に学ぶ。

到達目標

1. 生活習慣と病気について、疾病の予防も含み説明できる。
2. 医療の社会的ニーズ、医療費はどのように支払われているのかについて説明できる。
3. チーム医療について説明できる。
4. EBMとは何か説明できる。
5. 生命倫理学について説明できる。
6. ヘルシンキ宣言、倫理委員会の役割、インフォームドコンセントについて説明できる。
7. 移植医療、再生医療、ターミナルケアについて説明できる。
8. ゲノム、遺伝子、染色体について説明できる。
9. 遺伝子と遺伝の法則について説明できる。
10. 家系図を描くことができる。
11. 疾患と遺伝子変異について説明できる。
12. 遺伝子診断について説明できる。
13. オーダーメイド医療、薬理遺伝学について説明できる。
14. 遺伝子と生命倫理、遺伝カウンセリングについて説明できる。
15. 遺伝子治療について説明できる。
16. 法医学の位置づけ、定義、内容について説明できる。
17. 医療事故について説明できる。
18. 法医看護について説明できる。

大項目	中項目	小項目
. 医学概論	1. 健康と病気	1) 疾病と予防
	2. 医療の社会的ニーズ	1) 社会の医療に対する期待
	3. 医療と経済	1) 医療費の財源
	4. チーム医療の大切さ	1) 医療職の責任
	5. EBMとは何か	1) EBMに求められるもの
. 生命倫理学	1. 生命倫理学とは何か	1) 生命倫理学の成立 2) 生命倫理学の位置づけ
	2. 科学的医学	1) ヘルシンキ宣言 2) 倫理委員会の役割
	3. インフォームド・コンセント(IC)	1) ICの理念 2) 臨床試験はどうあるべきか
	4. 移植医療と再生医療	1) 脳死～移植医療の問題点 2) 再生医療の最前線
	5. ターミナルケア	1) がんと人間との闘い 2) 在宅医療と緩和医療
	6. 今後の医療と生命倫理学	1) 現代医療に対する批判 2) 環境問題と生命倫理学
. 先進医学へ期待と課題（遺伝子診療）	1. 遺伝子	1) 常染色体と性染色体 2) ゲノム 3) 核の遺伝子とミトコンドリア遺伝子 4) 遺伝子の構造、遺伝情報の発現
	2. 遺伝、遺伝の法則	1) 家族歴と家系図 2) ヒトのメンデル遺伝： 常染色体優性遺伝、常染色体劣性遺伝 X連鎖優性遺伝、X連鎖劣性遺伝
	3. 遺伝子と疾患	3) 非メンデル遺伝：ミトコンドリア遺伝 1) 遺伝子変異 2) 遺伝子診断 3) 遺伝子診断が可能な疾患 4) 発症前診断、保因者診断、出生前診断
	4. 薬理遺伝学	1) オーダーメイド医療 2) 一塩基多型(SNPs)
	5. 遺伝子と生命倫理	1) 生命倫理 2) 遺伝差別とプライバシーの保護 3) 遺伝カウンセリング 4) 遺伝カウンセラー、遺伝看護師
	6. 遺伝子治療	1) 体細胞遺伝子治療 2) 生殖細胞遺伝子治療
. 法医学概論	1. 法医学の位置づけ	1) 基礎医学 2) 臨床医学 3) 社会医学
	2. 法医学の定義	1) 法医学の役割
	3. 法医学の内容	1) 法医解剖（司法解剖・行政解剖） 2) 監察医制度 3) 異状死 4) 死亡診断書・死体検案書

大項目	中項目	小項目
. 法医学と看護	1. 医事法	5) 鑑定 6) 損傷 7) 窒息 8) 内因性急死 9) 交通外傷 10) 労災事故 11) 親子鑑定
	2. 法医看護	1) 医療事故の民事責任、刑事責任、行政責任 2) チーム医療と医療事故 3) 投薬と医療事故 4) 患者管理と医療事故 5) 看護事故 1) 法医病理学と臨床法医学 2) 法医看護の対象と内容 3) 法医看護のこれから

評価方法：講義への出席、レポート

教科書

新川詔夫 著 遺伝医学への招待 改訂第4版 南江堂 2008

参考図書

菅野純夫 著 わかる実験医学シリーズ
ゲノム医科学がわかる 羊土社 2001

柳澤桂子 著 ヒトゲノムとあなた 遺伝子を読み解く 集英社文庫 2004

福嶋 義光 監訳 トンプソン&トンプソン遺伝医学 ディカサインスタナショナル 2009

田中宣幸^他 著 学生のための法医学 6版 南山堂 2006

今井道夫 著 生命倫理学入門 3版 産業図書 2011

<講義スケジュール>

1	10.17	金	13:00~14:25	上塚 芳郎	医学概論
2	10.17	金	14:35~16:00	上塚 芳郎	医学概論
3	11. 7	金	13:00~14:25	菅野 仁	生命倫理学
4	11. 7	金	14:35~16:00	菅野 仁	生命倫理学
5	11.13	木	9:00~10:25	齋藤加代子	先進医学への期待と課題（遺伝子診療）
6	11.20	木	9:00~10:25	齋藤加代子	先進医学への期待と課題（遺伝子診療）
7	12. 1	月	13:00~14:25	木林 和彦	法医学概論
8	12. 1	月	14:35~16:00	木林 和彦	法医学と看護

働きかけの基本 看護活動

〔地域看護学実習 〕(保健師選択必修科目)

科目責任者 中田 晴美
 科目担当者 中田 晴美、柳 修平、服部真理子、
 犬飼かおり、清水 信輔、渡辺 昌子

目的

地域で生活をする人々の健康特性および地域における健康課題を明らかにし、保健所および保健センターにおける保健師活動の実際を経験することを通し、地域看護における保健師活動の基本的実践能力を養う。

到達目標

1. 対象となる地域の特性および地域環境を把握し、地域で生活する住民の健康状況および地域（個人・家族・集団）の健康課題を説明することができる。
2. 地域（個人・家族・集団）の健康課題を解決するために効果的な保健事業を企画・実施・評価する過程を説明することができる。
3. 地域（個人・家族・集団）の健康課題を解決するための働きかけの方法を選択し、実践することができる。
4. 地域保健看護活動に関連する法規とその活用を理解し、地域の保健・医療・福祉に関わる組織、各社会資源（人・組織・もの・制度等）の機能と役割について説明することができる。
5. 地域で生活する住民や関連職種と協働することの重要性および地域ケアシステムの構築に向けた連携・調整の方法について説明することができる。
6. 把握した地域（個人・家族・集団）の健康課題を解決するための施策化に向けた過程を説明することができる。
7. 健康危機管理に対する組織体制および支援対策を体系的に説明することができる。
8. 地域保健看護活動における保健師の役割と今後の課題および方策について提案することができる。

大項目	中項目	小項目
・地域で生活を共にする住民の健康特性	1. 地域特性や地域環境を踏まえた地域の健康課題の把握	1) 対象となる地域の特性および地域環境 2) 地域で生活する住民の健康状況 3) 地域（個人・家族・集団）の健康課題
・地域の保健福祉行政における保健師活動	1. 地域の健康課題を解決するための働きかけの方法	1) 効果的な保健事業の企画・実施・評価の過程 2) 働きかけの方法（家庭訪問・健康教育・健康相談・自主グループ育成・地区組織活動等）の理解 3) 健康課題を解決するために効果的な働きかけの方法の選択と実践
・地域における行政施策および地域ケアシステムの構築	1. 地域保健看護活動に関連する法律や枠組み、社会資源の理解 2. 住民、関連職種との連携・協働および看護の機能と役割	1) 地域保健看護活動に関連する法規の理解とその活用 2) 地域の保健・医療・福祉に関わる組織、各社会資源（人・組織・もの・制度等）の機能と役割 1) 保健医療福祉関連職種の機能と役割 2) チームメンバーとしての看護の独自性と住民、関連職種との連携・調整方法

大項目	中項目	小項目
	3. 地域ケアシステムの構築の過程 4. 施策化に向けた過程の理解	1) 既存の各社会資源の調整 2) 新たな地域ケアシステムの開発 1) 施策化が必要である根拠(法的基盤、科学的根拠等) 2) 関連部署・関連職種との調整 3) 自治体の各種計画との整合性 4) 施策の立案(企画・実施・評価) 5) 予算の仕組みの理解
健康危機管理に対する組織体制および支援対策	1. 健康危機管理に対する組織体制 2. 健康危機管理に対する支援対策	1) 健康危機管理体制 2) 関連職種の機能、役割 1) 健康危機発生の未然防止 2) 健康危機発生時に備えた準備 3) 健康危機への対応 4) 健康危機による被害の回復 5) 健康危機管理に対する組織における看護職の役割と関連職種との連携
地域住民の労働生活の場における看護活動の実際と働く人々に対する健康支援	1. 事業場で働く人々の健康特性 2. 把握した健康特性に基づく、個人および職場集団に対する働きかけ 3. 産業保健看護活動の機能と役割	1) 事業場で働く人々の労働形態や職場環境 2) 事業場で働く人々の健康特性の把握 1) 産業保健活動に関連する法規の理解 2) 実際に行われている個人および職場集団に対する活動 3) 職業に起因する健康障害の防止と健康保持増進のための働きかけ 1) 産業保健看護職の役割や位置づけ 2) 看護職がその独自性を発揮して行っている、関連職種との協働 3) 産業保健看護活動に対する科学的・創造的評価 4) 産業保健看護活動の今後の課題
地域保健における看護活動の基本	1. 地域保健看護活動の意義と保健師の役割の再考	1) 地域保健看護活動に対する科学的・創造的評価 2) 地域保健看護活動の今後の課題

実習方法：グループに分かれ、各実習施設(保健所・保健センター、事業場等)で実習を行う(地域看護学実習 実習要項を参照のこと)。

評価方法：事前学習、実習目標の達成度(記録提出、内容を含む)、出席状況(オリエンテーション、演習も含む)、実習態度等により総合的に評価を行う。

教科書

国民衛生の動向 2013/2014	厚生統計協会	2013
新版保健師業務要覧第3版	日本看護協会出版会	2013

参考図書

	国民の福祉の動向 2013/2014	厚生統計協会	2013
	保険と年金の動向 2013/2014	厚生統計協会	2013
	新版保健師業務要覧第2版	日本看護協会出版会	2008
	コミュニティアズパートナー	医学書院	2007
エリザベスT. アンダーソン, ジュディス・マクファーレン (金川克子・早川和生監訳)	地域看護学の理論と実際 第2版		
朝日新聞社 編	民力 2013年版	朝日新聞社	2013
荒賀直子他編	公衆衛生看護学.Jp 第3版	インターメディカル	2013
	Public Health Nursing in Japan		
奥山則子他	標準保健師講座1 地域看護学概論 第3版	医学書院	2011
中村裕美子他	標準保健師講座2 地域看護技術第2版	医学書院	2009
中谷芳美他	標準保健師講座3 対象別地域看護活動 第3版	医学書院	2014

<実習スケジュール>

学内オリエンテーション	2014. 4. 14 (月)	Ⅲ～Ⅳ限	学内オリエンテーション
学内演習	2014. 4. 15 (火)	Ⅲ～Ⅴ限	コミュニティヘルスアセスメント事前学習発表会
学内演習	2014. 4. 17 (木)	Ⅲ～Ⅴ限	赤ちゃん訪問演習
学内演習	2014. 4. 21 (月)	Ⅲ～Ⅳ限	乳児健診演習
学内演習	2014. 4. 23 (水)	Ⅲ～Ⅳ限	家庭訪問 (精神保健) 演習
実習機関別オリエンテーション	別途揭示		実習機関別オリエンテーション
1G	2014. 5. 26 (月)～6. 20 (金)		各区保健所・保健センター等
2G	2014. 6. 2 (月)～6. 27 (金)		各区保健所・保健センター等
産業保健看護実習	2014. 9. 25 (木)	Ⅰ～Ⅴ限	東芝エレベータ株式会社
実習報告会	2014. 10. 2 (木)	Ⅲ～Ⅴ限	コミュニティヘルスアセスメント演習発表会

〔精神看護学実習〕

科目責任者 田中 美恵子

科目担当者 田中 美恵子、濱田 由紀、小山 達也、
異儀田はづき、飯塚あつ子

目的

精神看護学で学んだ知識・技術を応用した看護実践活動を通して、精神保健・医療・福祉並びに精神障害者に対する理解を深めながら看護の役割について考え、精神に障害を持つ人に対する看護実践能力を養う。

到達目標

1. 精神に障害を持つ人の心を、生物・心理・社会的観点から理解する。
 - 1) 発病に至った経緯を生物・心理・社会的観点から説明できる。
 - 2) 発達段階を考慮し、精神状態や精神症状を査定できる。
 - 3) 行動レベルでの変化を把握できる。
 - 4) 健康な精神活動を把握できる。
2. 生活者としての精神障害者を理解する。
 - 1) 生活者としての精神障害者の人権について理解する。
 - 2) 精神状態の生活行動（セルフケア）への影響を査定できる。
 - 3) 入院生活が精神障害者の生活に及ぼしている影響を把握できる。
 - 4) 社会制度・社会的諸条件が、精神障害者の生活に及ぼしている影響を把握できる。
3. 対人関係的関わりを通して、精神障害者の生活援助を実践できる。
 - 1) 対人関係論の知識・技術を応用し、対象者と治療的人間関係を築くことができる。
 - 2) 対象者との関係を展開し、自己洞察を通して評価できる。
 - 3) 対象者のセルフケアレベルを査定し、対象者に応じたセルフケア援助を実践することができる。
 - 4) 社会資源を活用し、対象者の今後の生活に向けてのリハビリテーション援助を実践することができる。
4. 精神科病院並びに地域で行われている保健・医療・福祉援助について知る。
 - 1) 精神科病院で行われている各種治療的アプローチ（集団療法、作業療法、デイケア、外来、訪問看護等）について知る。
 - 2) 入院患者に利用可能な地域の社会資源（保健所、保健センター、福祉事務所、共同作業所、地域生活支援センター等）の活用について知る。
 - 3) 病院並びに地域における各種専門職と看護師との連携について知り、看護師のコーディネーション機能や役割について理解する。

大項目	中項目	小項目
・精神に障害を持つ人に対する理解を深める	1. 精神に障害を持つ人の心を生物・心理・社会的観点から理解する 2. 生活者としての精神障害者を理解する	1) 発病に至った経緯を生物・心理・社会的観点から説明できる 2) 発達段階を考慮し、精神状態や精神症状を査定する 3) 行動レベルでの変化を把握する 4) 健康な精神活動を把握する 1) 生活者としての精神障害者の人権について理解する 2) 精神状態の生活行動（セルフケア）への影響を査定する 3) 入院生活が精神障害者の生活に及ぼしている影響を把握する 4) 社会制度・社会的諸条件が、精神障害者の生活に及ぼしている影響を把握する
・精神に障害を持つ人に対する看護実践能力を養う	1. 対人関係的関わりを通して、精神に障害を持つ人の生活援助を実践する	1) 対人関係論の知識・技術を応用し、対象者と治療的人間関係を築く 2) 対象者との関係を展開し、自己洞察を通して評価できる 3) 対象者のセルフケアレベルを査定し、対象者に応じたセルフケア援助を実践する 4) 社会資源を活用し、対象者の今後の生活に向けてのリハビリテーション援助を実践する
・精神保健・医療・福祉に対する理解を深めながら看護の役割について考える	1. 精神科病院並びに地域で行われている保健医療・福祉援助について知る	1) 精神科病院で行われている各種治療的アプローチ（集団療法、作業療法、デイケア、外来、訪問看護等）について知る 2) 入院患者に利用可能な地域の社会資源（保健所、保健センター、福祉事務所、共同作業所等）の活用について知る 3) 病院並びに地域における各種専門職と看護師との連携について知り、看護師のコーディネーション機能や役割について理解する

実習方法

精神科病院および地域社会資源にて実習を行う（精神看護学実習要項を参照）。

評価方法

出席状況、看護実践、実習記録、学習態度などにより総合的に評価を行う。

教科書

なし

〔精神看護学実習〕

科目責任者：田中美恵子

4月 15日(火) II限	オリエンテーション
---------------	-----------

Iクール	5月 7日(水)～5月16日(金)	病棟実習・作業所実習
IIクール	5月19日(月)～5月30日(金)	病棟実習・作業所実習
IIIクール	6月 2日(月)～6月13日(金)	病棟実習・作業所実習
IVクール	6月16日(月)～6月27日(金)	病棟実習・作業所実習

*2週間の期間中に計10日間の実習を行う

〔 統合実習 〕

科目責任者 日沼 千尋
 科目担当者 飯岡由紀子、小川久貴子、佐藤 紀子、田中美恵子、日沼 千尋、
 水野 敏子、守屋 治代、柳 修平、金子真理子、菊池 昭江、
 近藤 暁子、関森みゆき、中田 晴美、原 三紀子、吉田 澄恵、
 青木 雅子、犬飼かおり、奥野 順子、加藤 京里、草柳かおる、
 見城 道子、小山 達也、坂井 志麻、竹内 道子、服部真理子、
 濱田 由紀、原 美鈴、原田 通予、宮内 清子、天野 陽子、
 飯塚あつ子、異儀田はづき、小林 礼実、櫻田 章子、潮田千寿子、
 清水 信輔、鈴木香緒理、鈴木小弥香、田幡 純子、那須実千代、
 成澤 明、原沢のぞみ、三浦美奈子、峯川美弥子、山内 英樹、
 渡邊 賢治、渡辺 昌子

目的

選択した看護専門領域において、保健医療福祉チームの一員として看護を統合的かつ継続的に実践するために必要な知識と技術の統合を図る。この学習を通して、自己の課題を明確化し、統合実習 に取り組む姿勢を高める。

到達目標

- 1) 選択した領域における看護の専門性・特性について説明することができる。
- 2) 選択した領域における看護の実践に必要な知識や技術を主体的に学習することができる。
- 3) 選択した領域における組織体制、看護体制について説明することができる。
- 4) 選択した領域における対象者（個人、家族）を支える社会資源（ソフト面、ハード面）および保健医療福祉ケアシステムについて説明することができる。
- 5) 統合実習 に向けて自己の学習課題を述べるすることができる。
- 6) 統合実習 の実習計画を立案することができる。

大項目	中項目	小項目
・ 選択領域における看護実践に必要な知識・技術の統合的理解	1. 選択領域における対象者の特性と看護の専門性の理解	1) 対象者の特徴(身体・心理・社会的) 2) 成長発達、健康レベル 3) 生活を取り巻く環境 4) 看護の特性
	2. 選択領域における看護実践に必要な知識や技術の主体的な学習	1) 看護実践に必要な理論の特性 2) 看護実践に伴う知識・技術の文献を用いた学習 3) 文献や指導者などの学習資源の活用 4) 基本的看護技術の学習
・ 対象者を支える保健医療福祉ケアシステムの理解	1. 選択領域における組織体制や看護体制の理解	1) 実習施設における組織構造・理念・目標 2) 実習施設における看護体制・ケアシステム
	2. 選択領域における対象者を支える社会資源(ソフト面、ハード面)や保健医療福祉ケアシステムの理解	1) 実習施設内における看護職の役割と他職種の役割・協働 2) 対象者(個人、家族)を支援する実習施設外の関係機関、関係職種との連携と看護職の独自性 3) 保健医療福祉政策および社会資源 4) 対象者と社会資源をつなげる方法
・ 学習課題の明確化と学習方略および看護活動を探求する能力の育成	1. 学習課題の抽出と設定	1) これまでの学習経過の省察と自己評価 2) 1)を踏まえた学習課題の抽出・設定
	2. 自己の実習目標の達成に向けた計画立案	1) 統合実習 で達成可能な実習目標の設定 2) 実習目標の達成に向けた行動計画の立案

実習方法

実習到達目標に沿い、各領域の実習方法に従い実習を行う（「統合実習 ・統合実習 実習要項」を参照のこと）。

評価方法

実習到達目標の達成状況（記録物も含む）、実習への取り組み（実習態度）、出席（規定による）の観点から総合的に行う。

参考図書

担当教員より別途指示する。

講義スケジュール

2014.5. 7（水）～5.16（金） 2014.5.19（月）～5.30（金） 2014.6. 2（月）～6.13（金） 2014.6.16（月）～6.27（金） 2014.6.30（月）～ 7.4（金）	うち5日間	臨地実習
--	-------	------

〔 統合実習 〕

科目責任者 日沼 千尋
 科目担当者 飯岡由紀子、小川久貴子、佐藤 紀子、田中美恵子、日沼 千尋、
 水野 敏子、守屋 治代、柳 修平、金子真理子、菊池 昭江、
 近藤 暁子、関森みゆき、中田 晴美、原 三紀子、吉田 澄恵、
 青木 雅子、犬飼かおり、奥野 順子、加藤 京里、草柳かおる、
 見城 道子、小山 達也、坂井 志麻、竹内 道子、服部真理子、
 濱田 由紀、原 美鈴、原田 通予、宮内 清子、天野 陽子、
 飯塚あつ子、異儀田はづき、小林 礼実、櫻田 章子、潮田千寿子、
 清水 信輔、鈴木香緒理、鈴木小弥香、田幡 純子、那須実千代、
 成澤 明、原沢のぞみ、三浦美奈子、峯川美弥子、山内 英樹、
 渡邊 賢治、渡辺 昌子

目的

4年間で学習した知識と技術を統合し、自ら選択した看護専門領域において、臨床実践を中心に学習し、保健医療福祉チームの一員として看護を統合的かつ継続的に展開して、看護の実践力を高める。

到達目標

1. 看護専門領域における対象者の特性について説明することができる。
2. 看護専門領域における対象者の看護の必要性について説明することができる。
3. 看護専門領域における対象者の特性をふまえた専門性のある看護を実践できる。
4. 看護専門領域における対象者に必要な看護を、基本的看護技術を活用して実践できる。
5. 看護専門領域における対象者の看護の継続性について説明することができる。
6. 看護チームの一員としての役割を担い、行動できる。
7. 保健医療福祉チームにおける他職種との協働について説明することができる。
8. 統合実習における看護実践を通して、社会における看護の役割について説明することができる。
9. 統合実習における看護実践を通して、社会の一員として倫理的に行動できる。
10. 統合実習における看護実践を通して、看護専門領域における課題に取り組み自らの能力を拡大できる。

大項目	中項目	小項目
看護専門領域における看護の統合的実践	1. 対象の特性の理解 2. 看護専門領域における対象の看護の理解 3. 対象の特性をふまえた専門性のある看護の実践 4. 看護の継続性の実践的な理解	1) 発達段階、健康レベル 2) 対象者の生活を取り巻く環境 1) 対象者の発達段階、健康状態、生活の査定 2) 対象者の看護ニーズの優先度の決定 1) 対象者の特性をふまえた看護過程を用いた看護の展開 2) 個別性の高い看護の実践 3) 地域社会における生活場所を想定した看護の実践 4) 対象者の意思決定を促す援助 5) 対象者の権利を尊重した援助 6) 対象者に必要な基本的看護技術を活用した実践 1) 日勤帯と夜勤帯の連携した看護 2) 地域社会における生活場所の想定と連携の必要性

大項目	中項目	小項目
保健医療福祉チームとしての統合的な看護	1. 看護チームの一員としての行動	1) 受け持ち対象者の情報提供 2) 受け持ち対象者の援助をチームに要請 3) 受け持ち以外の対象者の情報提供 4) 受け持ち以外の対象者の看護をチームに相談しながら可能な範囲で実践 5) チームカンファレンスの企画・運営・評価 6) チームにおけるコミュニケーションの重視
	2. 看護の専門的役割に基づく他職種との協働の理解	1) 社会資源・地域を活用した取り組み 2) 他職種と連携した対象に必要な保健医療福祉の理解 3) 連携機関・施設との効果的な関わり
統合実習をふまえた今後の自己能力の拡大	1. 社会の一員としての自覚 2. 自己の能力を拡大させる取り組み	1) 社会における看護の役割の理解 2) 社会の規範に従った倫理的行動 1) 既習の学びの総合的活用 2) 創造的思考に基づく課題解決 3) 看護専門領域における課題の探究

実習方法

実習到達目標に沿い、各領域の実習方法に従い実習を行う（「統合実習・統合実習 実習要項」を参照のこと）。

評価方法

実習到達目標の達成状況（記録物も含む）、実習への取り組み（実習態度）、出席（規定による）の観点から総合的に行う。

参考図書

担当教員より別途指示する。

講義スケジュール

2014.7.7(月)～7.18(金)	臨地実習
---------------------	------

〔コミュニケーションの理論と実際〕(選択科目)

科目責任者 川上 華代

科目担当者 川上 華代、大畠みどり

目的

事例や演習を通して、医療現場におけるコミュニケーションやカウンセリングに対する理解を深め、医療の専門家として必要不可欠なコミュニケーション能力を身につける。

到達目標

1. 心理学的な視点からコミュニケーションの定義や種類について説明できる。
2. 援助やサポートにおけるコミュニケーションの意義や役割について説明できる。
3. チームや組織での活動におけるコミュニケーションの意義や役割について説明できる。
4. 医療におけるカウンセリングの意義、目的、方法について説明ができる。
5. コミュニケーションにおける自己表現の方法を学び、円滑な自己表現について説明ができる。
6. ストレスのメカニズムおよびストレスマネジメントの意義、目的、方法について説明ができる。

大項目	中項目	小項目
・コミュニケーションの理論	1. 対人コミュニケーション 2. 対人援助におけるコミュニケーション 3. 組織におけるコミュニケーション	1) コミュニケーションとは 2) 対人コミュニケーション 1) 援助要請 2) ソーシャルサポート 1) 集団・組織のコミュニケーション 2) コンサルテーションとチーム援助 3) 多職種連携
・コミュニケーションの実際	1. カウンセリングの実際 2. アサーショントレーニングとは 3. ストレスマネジメントとは	1) 子どものカウンセリング 2) 医療におけるカウンセリング 1) さまざまな形の自己表現 2) アサーショントレーニングの実際 1) ストレスの影響とストレス反応 2) ストレスコーピングなど 3) 医療におけるストレスマネジメント

評価方法：講義への出席、授業内レポート、学科試験によって総合的に評価する。

教科書

特に指定しない

参考図書

適宜紹介する

<講義スケジュール>

1	2014.9.17	水	13:00～14:25	大島みどり	コミュニケーションとは
2	9.17	水	14:35～16:00	大島みどり	対人コミュニケーション
3	9.19	金	13:00～14:25	川上 華代	子どものカウンセリング
4	9.19	金	14:35～16:00	川上 華代	医療におけるカウンセリング
5	9.24	水	13:00～14:25	大島みどり	援助要請
6	9.24	水	14:35～16:00	大島みどり	ソーシャルサポート
7	9.26	金	13:00～14:25	川上 華代	さまざまな形の自己表現
8	9.26	金	14:35～16:00	川上 華代	アサーショントレーニングの実際
9	10.1	水	13:00～14:25	大島みどり	集団・組織のコミュニケーション
10	10.1	水	14:35～16:00	大島みどり	コンサルテーションとチーム援助
11	10.3	金	13:00～14:25	川上 華代	ストレスの影響とストレス反応
12	10.3	金	14:35～16:00	川上 華代	ストレスコーピングなど
13	10.8	水	13:00～14:25	大島みどり	多職種連携
14	10.10	金	13:00～14:25	川上 華代	医療におけるストレスマネジメント
15	10.10	金	14:35～16:00	川上・大島	試験

人間性を育む

〔英語 〕(選択科目)

科目責任者 木村みどり

科目担当者 木村みどり、遠藤 美香

目的

医療分野の国際化に対応するために、海外における最新情報を入手できる英語講読力をつけ、病院においては英語で患者と対応できる会話力をつける。

到達目標

1. 専門文献の購読力をつける。
2. 病院で英語を話せるナースになる。

看護英会話

(担当者 木村みどり)

1. 臨床で使用される看護英単語を理解できる。
2. 看護の現場における英会話ができる。

大項目	中項目	小項目
英語演習	1. 臨床実習での会話力の向上 2. 臨床実習に必要な専門用語の復習	1) 初診時の患者の状況 2) 患者の家族、背景の説明 1) 患者の病状の変化 2) 治療の経過 3) 病院案内

評価方法：単語小テスト - 20%、最終テスト - 80%で評価する。但し、出席が3分の2未満の場合は、最終テストを受ける事ができない。

教科書

知念クリスティーン
迫 和子

クリスティーンのレベルアップ看護英会話

医学書院

2001

文献講読

(担当者 遠藤 美香)

このクラスの目標は、看護学及びその関連分野について英語で書かれた文献を読むために必要な基礎力を確認し、目的に合った読解力を定着させることである。授業では、速読、精読、および要旨文の書き方の演習を行う。また、医療専門用語の語彙増強をはかる。

大項目	中項目	小項目
専門領域の文献 講読	1. 速読 2. 要旨文 3. 精読 4. 医療専門用語	1) 欧米の医療現場 2) 予防医療 3) 医療英語、語形成、略語

評価方法：講義への出欠、小テスト、試験

教科書

なし、演習用プリント配布

参考図書

Rebecca Brown	Excerpts from a Family Medical Dictionary	The University of Wisconsin Press	2003
Martha J. Franklin	Guide to Professional Nursing	メヂカルフレンド社	2000
	A Dictionary of Nursing 6版	Oxford University Press	2014
佐藤登志郎 監修	スタンダード医学英和辞典 2版	南山堂	2008
藤枝宏壽 他編	これだけは知っておきたい 3版	メジカルビュー社	2013
	医学英語の基本用語と表現 増補改訂版		
平野美津子	看護師たまごの英語 40日間トレーニングキット	アルク	2008
菱田治子 著	(CD付属)(医学英語シリーズ)		

<講義スケジュール>

1	2014. 9. 9	火	13:00~14:25	木村みどり	Unit 1 : Do you work on the surgical ward? Activity 1~4
2	9. 9	火	14:35~16:00	木村みどり	Unit 1 : Activity 5 Unit 2 : What's your problem today?
3	9.10	水	14:35~16:00	遠藤 美香	Introduction
4	9.16	火	13:00~14:25	木村みどり	Unit 2 : Activity 4&5 Unit 3 : This is the nurses' station. Activity 1&2
5	9.16	火	14:35~16:00	木村みどり	Unit 3 : Activity 3~5
6	9.17	水	16:10~17:35	遠藤 美香	Reading III-1
7	9.24	水	16:10~17:35	遠藤 美香	Reading III-2
8	10.1	水	16:10~17:35	遠藤 美香	Reading III-3
9	10.8	水	14:35~16:00	遠藤 美香	Reading III-4
10	10.15	水	14:35~16:00	遠藤 美香	Reading III-5
11	10.22	水	14:35~16:00	遠藤 美香	Reading III-6
12	10.29	水	14:35~16:00	遠藤 美香	Reading III-7
13	11.5	水	14:35~16:00	遠藤 美香	Reading III-8
14	11.12	水	14:35~16:00	遠藤 美香	Reading III-9
15	11.14	金	9:00~10:25	木村みどり	Unit 4 : Are you suffering from any illnesses? Activity 1~4
16	11.14	金	10:35~12:00	木村みどり	Unit 4 : Activity 5 Unit 5 : You need to have an MRI. Activity 1&2
17	11.19	水	14:35~16:00	遠藤 美香	Reading III-10
18	11.21	金	9:00~10:25	木村みどり	Unit 5 : Activity 3~5
19	11.21	金	10:35~12:00	木村みどり	Unit 6 : You're going to have a baby! Activity 1~4
20	11.25	火	13:00~14:25	木村みどり	Unit 6 : Activity 5 Unit 7 : My baby has a fever. Activity 1&2
21	11.25	火	14:35~16:00	木村みどり	Unit 7 : Activity 3~5
22	11.26	水	14:35~16:00	遠藤 美香	Reading III-11
23	11.26	水	16:10~17:35	遠藤 美香	Reading III-12
24	11.28	金	9:00~10:25	木村みどり	Unit 8 : Your surgery will be tomorrow at 10 a.m. Activity 1~4
25	11.28	金	10:35~12:00	木村みどり	Unit 8 : Activity 5 Unit 9 : How are you feeling? Activity 1&2
26	12. 9	火	13:00~14:25	木村みどり	Unit 9 : Activity 3~5 Unit 10 : Are you worried about anything? Activity 1&2
27	12. 9	火	14:35~16:00	木村みどり	Unit 10 : Activity 3~5
28	12.10	水	14:35~16:00	遠藤 美香	Reading III-13
29	12.10	水	16:10~17:35	遠藤 美香	試験
30	12.16	火	13:00~14:25	木村みどり	試験

〔英語 〕 (選択科目) : ハワイ大学

科目責任者: 木村みどり

科目担当者: 木村みどり

目的

実体験を通して、英語によるコミュニケーション、ハワイ州およびアメリカの医療、歴史、文化、伝統、社会状況を学ぶ

到達目標

1. 簡単な会話を英語で行うことができる。
2. ハワイ・パシフィック大学 (HPU) での講義を、できるだけ英語で理解する。
3. 英語で日本を紹介するプレゼンテーションをすることができる。
4. 日米の歴史のつながりについて理解する。

大項目	中項目	小項目
スピーキング	1. 海外生活のための英会話	1) 飛行場や税関における英会話 2) ホテルにおける英会話 3) 様々な交通手段を利用するときの英会話 4) 買い物をするときの英会話
	2. 英語によるスピーチ	1) 自分や家族、東京女子医科大学について話す 2) 日本の医療について話す 3) 与えられたテーマについて話す
リスニング	3. 必要な情報を英語で聞き取る	1) 日常生活におけるコミュニケーション 2) アメリカやハワイの歴史 3) アメリカの医療

評価方法: 日本での事前研修態度、HPU での授業態度、プレゼンテーションの成果
ハワイでの街頭インタビュー(6人以上)の総合

教科書

特に指定せず、必要に応じてプリントを配布する

参考資料

佐藤 公雄 編著 First Time Abroad 「初めての海外旅行」 成美堂 1997
その他、必要に応じてプリントを配布する

<講義スケジュール>

1	7. 5	土	9:00~10:25	木村みどり	壮行会 (HPU & Alverno)
2	7. 5	土	10:35~12:00	木村みどり	旅行社オリエンテーション (情報実習室)
3	7.12	土	9:00~10:25	木村みどり	自己紹介の練習
4	7.12	土	10:35~12:00	木村みどり	オリエンテーション(含:旅行社)
5	7.12	土	13:00~14:25	木村みどり	インタビューの練習
6	7.12	土	14:35~16:00	木村みどり	ハワイの歴史について学ぶ
7	7.19	土	9:00~10:25	木村みどり	日系移民・日米戦争について学ぶ
8	7.19	土	10:35~12:00	木村みどり	各グループによるプレゼンテーションの練習(1)
9	7.19	土	13:00~14:25	木村みどり	各グループによるスピーチの練習(2)
10	7.19	土	14:35~16:00	木村みどり	各グループによるスピーチの練習(3)
11	7.26	土	9:00~10:25	木村みどり	各グループによるプレゼンテーションの練習(4)
12	7.26	土	10:35~12:00	木村みどり	各グループによるプレゼンテーションの練習(5)
13	7.26	土	13:00~14:25	木村みどり	各グループによるプレゼンテーションの練習(6)
14					出発
15					グループ・プレゼンテーションの練習(7) ハワイ・パシフィック大学にて授業 英語によるグループ・プレゼンテーション クイーンズ・メディカルセンター訪問 ハワイについて調査したことの復習 フィールドワーク
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					帰国
29	10.18	土	10:35~12:00	木村みどり	帰国報告会の準備
30	10.18	土	13:00~14:25	木村みどり	帰国報告会

〔英語〕（選択科目）：アルバーノ大学

科目責任者：木村みどり

目的

国際的に活躍できる医療従事者になるための勉強と経験を積む。本学を代表する学生として、提携校であるアルバーノ大学の授業や看護実習に参加し、国際交流を図る。

到達目標

1. 日常英会話ができる。
2. 基本的な看護英語を理解し使える。
3. 英語による看護の授業を理解できる。
4. 日本における看護事情や社会情勢、文化について英語で話せる。

大項目	中項目	小項目
医療従事者として国際的に通用する英語力をつける	1. アルバーノ大学での授業を理解する 2. 看護実習病院で英語によるコミュニケーションを行なう	1) 必要な情報を英語で聞き取る 2) 自分の考えを英語で発表する 3) 日本の看護事情について話す 4) 医療トピックについてディスカッションする 1) Medical Terms 増強 2) さまざまな医療関係のトピックを学ぶ
国際人としての視野を広げる	1. アルバーノ大学の学生と交流する	1) 日常英会話の実践 2) アルバーノ・カレッジや外国からの学生と交流を持ち、意見を交換する。

評価方法：研修前の日本での授業におけるテスト、アルバーノ大学よりの報告書、帰国報告プレゼンテーションの総合

教科書

特に指定せず、必要に応じてプリントを配布する

参考資料

行時 潔 / Daniel Droukis	Experience an English Program! 語学留学に行こう	松柏社	2006
Steven Widdows, Peter Voller	CHATTERBOX	南雲堂	2006
その他、必要に応じて、プリント配布			

<講義スケジュール>

1	7. 5	土	9:00~10:25	木村みどり	壮行会
2	7. 5	土	10:35~12:00	木村みどり	旅行社オリエンテーション
3	8. 6	水	9:00~10:25	木村みどり	Health Assessment-Community, Family, Individual
4	8. 6	水	10:35~12:00	木村みどり	Nursing Theory of acutely & chronically Ill Populations
5	8. 7	木	9:00~10:25	木村みどり	Physiological Mechanisms & Disease
6	8. 7	木	10:35~12:00	木村みどり	Overview of Alverno College
7	8. 8	金	9:00~10:25	木村みどり	Vulnerable people
8	8. 8	金	10:35~12:00	木村みどり	スピーチ、Presentation 練習 看護英語の復習
9	8.18	月	9:00~10:25	木村みどり	Nutrition in wellness 看護英語の復習
10	8.18	月	10:35~12:00	木村みどり	スピーチ、Presentation 練習 看護英語の復習
11	8.19	火	9:00~10:25	木村みどり	スピーチ、Presentation 練習 看護英語の復習
12	8.19	火	10:35~12:00	木村みどり	スピーチ、Presentation 練習 看護英語の復習
13	8.20	水	9:00~10:25	木村みどり	スピーチ、Presentation 練習 看護英語の復習
14	8.20	水	10:35~12:00	木村みどり	スピーチ、Presentation 練習 看護英語の復習
15	8.21	木	9:00~10:25	木村みどり	スピーチ、Presentation 練習 看護英語の復習
16	8.21	木	10:35~12:00	木村みどり	総合復習 & 留学直前 オリエンテーション
17	8.22	金	9:00~10:25	木村みどり	総合復習 & 留学直前 オリエンテーション
18				木村みどり	アルバーノ大学にて授業および実習
19				木村みどり	
20				木村みどり	
21				木村みどり	
22				木村みどり	
23				木村みどり	
24				木村みどり	
25				木村みどり	
26				木村みどり	
27				木村みどり	
28				木村みどり	
29	10.18	土	10:35~12:00	木村みどり	帰国報告まとめ
30	10.18	土	13:00~14:25	木村みどり	帰国報告会

〔パフォーマンス芸術論〕(選択科目)

科目責任者 中川 聖子

目的

さまざまな舞台作品を鑑賞し、ダンスの演習・実技を通して、身体の使い方や身体表現を実践し、自分自身の「からだ」や他者の「からだ」について文化的・動作的理解を深める。

到達目標

1. パフォーマンス芸術の変遷について理解できる。
2. さまざまな国、さまざまなジャンルのパフォーマンス芸術について、文化的・動作的な特徴を理解できる。
3. 表現するための身体として、必要なトレーニング方法や表現方法を理解し実践できる。
4. 表現する他者とのかかわりの中で、パフォーマンス作品として成立していく過程を理解し実践できる。

大項目	中項目	小項目
.パフォーマンス芸術に関する概要 (授業のガイドライン)	1. パフォーマンスとは 2. ダンスとは 3. 舞台とは	1) パフォーマンス芸術の歴史の変遷 2) パフォーマンス芸術の最近の動向
.ダンス作品の見方	1. 作品の目的と表現法	1) ブロードウェイ ダンス作品 2) クラシックバレエ作品
.ダンストレーニングにおける身体の使い方 (実技)	1. 姿勢 2. 柔軟性	1) 基本姿勢 2) ストレッチ エクササイズ
.ダンス作品の見方	1. 舞台構成について	1) コンテンポラリー作品
.ダンス演習 (実技)	1. 柔軟性 2. 身体の使い方	1) フロア エクササイズ 2) バー エクササイズ
.ダンサーと振り付けについて	1. 作品構成について	1) ダンサーの魅力について 2) 振り付けと作品製作
.ダンス演習 (実技)	1. 柔軟性 2. 身体の使い方	1) フロア エクササイズ 2) コンビネーション ダンス
.ダンス作品の見方	1. 劇場での鑑賞法	1) 劇場とは? 劇場の使用法 2) 舞台の仕組み 衣装
.ダンス演習 (実技)	1. 柔軟性 2. 身体の使い方	1) フロア エクササイズ 2) コンビネーション ダンス
.ダンス作品の見方	1. トレーニングの有効性について	1) ダンスのトレーニング法 2) クラシックバレエのトレーニング法

大 項 目	中 項 目	小 項 目
XI. ダンス演習 (実技)	1. 作品の実演	1) フロア エクササイズ 2) コンビネーション ダンス
XII. ダンス作品の見方	1. 作品の比較	1) 日本の舞踊について
XIII. ダンス演習 (実技)	1. 作品の実演	1) フロア エクササイズ 2) コンビネーション ダンス
XIV. まとめ	1. 作品の比較	1) 身体表現と芸術性について総論
XV. まとめ (実技)	1. 実演・鑑賞	1) コンビネーションのまとめ ダンス作品として

評価方法：受講時の平常点70%、レポート30%

<講義スケジュール>

1	2014.10.16	木	13:00～14:25	中川 聖子	パフォーマンス芸術に関する概要 (授業のガイドライン)
2	10.30	木	13:00～14:25	中川 聖子	ダンス作品の見方Ⅰ
3	10.30	木	14:35～16:00	中川 聖子	ダンストレーニングにおける身体の使い方 (実技)
4	11.6	木	13:00～14:25	中川 聖子	ダンス作品の見方Ⅱ
5	11.6	木	14:35～16:00	中川 聖子	ダンス演習Ⅰ (実技)
6	11.13	木	13:00～14:25	中川 聖子	ダンサーと振り付けについて
7	11.13	木	14:35～16:00	中川 聖子	ダンス演習Ⅱ (実技)
8	11.20	木	13:00～14:25	中川 聖子	ダンス作品の見方Ⅲ
9	11.20	木	14:35～16:00	中川 聖子	ダンス演習Ⅲ (実技)
10	11.27	木	13:00～14:25	中川 聖子	ダンス作品の見方Ⅳ
11	11.27	木	14:35～16:00	中川 聖子	ダンス演習Ⅳ (実技)
12	12.4	木	13:00～14:25	中川 聖子	ダンス作品の見方Ⅴ
13	12.4	木	14:35～16:00	中川 聖子	ダンス演習Ⅴ (実技)
14	12.11	木	13:00～14:25	中川 聖子	まとめ
15	12.11	木	14:35～16:00	中川 聖子	まとめ (実技)

〔国際関係論〕(選択科目)

科目責任者 遠藤 弘良

科目担当者 遠藤 弘良、塚原 高広、櫻井 美樹

目的

世界の保健問題の現状を様々な視点から理解を深めるとともに、看護を担う者として、国際人としての感覚を養い、国境を越え、人々の健康と福祉に役立つための基礎を学ぶ。

到達目標

1. 途上国を中心とした世界の健康の現状を説明できる。
2. 国際協力の仕組み(二国間協力、多国間協力等)と看護分野の協力の現状と課題を説明できる。
3. 国際保健の社会的側面として医療人類学、リプロダクティブヘルスの概念について説明できる。

大項目	中項目	小項目
・国際保健	1. 世界の保健問題(総論) 2. 世界の保健問題(各論)	1) 健康の現状 a) 母子保健 b) 感染症 c) 慢性疾患 2) 国際協力 a) 二国間協力 b) 多国間協力 1) 社会医学からみた各論 a) 医療の多元性と文化 b) ヘルスケアシステム c) セルフケアと伝統医療 d) 住民の健康希求行動とヘルスケアシステムの利用 2) 国際協力各論 a) 看護分野の国際協力 b) 異文化理解と国際協力 c) N G Oの活動 3) リプロダクティブヘルス・ライツ a) 歴史と定義 b) 妊産婦死亡と安全な出産(世界の今までの取り組み) c) 日本の新たな取り組み d) ケーススタディ

評価方法

講義への出席、課題レポートにより評価を行う

教科書

なし

参考図書

ユニセフ	世界子供白書 2009 妊産婦と新生児の保健	日本ユニセフ協会	2009
世界銀行	世界開発報告 2012 変わりつつある世界経済地理	一灯舎	2012
竹内勤 他	国際保健の優先課題	保健同人社	2007
中村安秀 編	国際保健医療のお仕事 改訂 2 版	南山堂	2008
吉田敬三 編	なぜ医師たちは行くのか？ 国際医療ボランティアガイド	羊土社	2003
バッシュ	国際保健学講座	じほう	2001
小早川隆敏 編	国際保健医療協力入門	国際協力出版会	1998
小早川隆敏 編著	感染症マニュアル 第 4 版	スパイラル出版	2005
日本国際保健医療学会 編	国際保健医療学 第 2 版	杏林書院	2005
我妻堯	リプロダクティブヘルス	南江堂	2002
田村やよひ 編	国際看護学 第 2 版	メヂカルフレンド社	2012

<講義スケジュール>

1	2014.9.8	月	13:00~14:25	塚原 高広	国際保健(1)
2	9.8	月	14:35~16:00	塚原 高広	国際保健(2)
3	9.29	月	13:00~14:25	遠藤 弘良	国際保健(3)
4	9.29	月	14:35~16:00	遠藤 弘良	国際保健(4)
5	9.29	月	16:00~17:35	遠藤 弘良 _他	国際保健(5)
6	10.6	月	13:00~14:25	遠藤 弘良 _他	国際保健(6)
7	10.6	月	14:35~16:00	遠藤 弘良 _他	国際保健(7)
8	12.2	火	13:00~14:25	櫻井 美樹	国際保健(8)

各専門領域への発展

〔リエゾン精神看護〕

科目責任者 田中美恵子

科目担当者 西川 律子、尾崎 恭子、山内 典子
安田 妙子

目的

精神看護学の一専門領域としてのリエゾン精神看護の位置づけ・目的と機能を理解し、身体疾患をもつ対象の精神の健康問題とそれに対する看護援助、看護師のメンタルヘルスとそのサポート、さらに看護アプローチの技法について学ぶ。

到達目標

1. 精神看護学の一専門領域としてのリエゾン精神看護の位置づけ・目的・機能について説明できる。
2. 身体疾患をもつ対象の精神の特徴およびアセスメントの方法について説明できる。
3. せん妄、抑うつ、不安の3つの精神状態について説明できる。
4. 直接ケアおよびコンサルテーションのプロセスや方法、役割について説明できる。
5. 看護師のメンタルヘルスの特徴およびリエゾン精神専門看護師が行う支援について説明できる。

大項目	中項目	小項目
・リエゾン精神看護とは	1. リエゾン精神看護の目的と機能	1) リエゾン精神看護の位置づけ 2) リエゾン精神看護の目的 3) リエゾン精神看護の機能 4) 理論的枠組み 5) 歴史および制度
・対象の理解	1. 対象の特徴とアセスメント	1) 対象の特徴 2) アセスメント
・精神症状の理解	1. せん妄 2. 抑うつ・不安	1) せん妄の病態と治療 2) 抑うつ・不安の特徴とケア
・看護活動の実際	1. 患者/家族の直接ケア 2. 患者/家族の直接ケア 3. コンサルテーション 4. 看護師のメンタルヘルスの支援	1) 患者/家族の問題の特徴 2) 患者/家族のケアの実際 1) コンサルテーションとは 2) コンサルテーションの実際 1) 看護師のメンタルヘルスの特徴 (リアリティショック、バーンアウトなど) 2) メンタルサポートの実際

評価方法

出席状況、試験

教科書

野末聖香 編

リエゾン精神看護 患者ケアとナース支援のために

医歯薬出版

2004

<講義スケジュール>

1	2014.10.22	水	9:00～10:25	山内 典子	リエゾン精神看護の対象の理解
2	10.29	水	9:00～10:25	安田 妙子	リエゾン精神看護とは（定義・目的・理論的枠組み・歴史と制度）
3	11.4	火	10:35～12:00	西川 律子	看護活動の実際1：患者/家族の直接ケア①
4	11.11	火	10:35～12:00	西川 律子	看護活動の実際2：患者/家族の直接ケア②
5	11.18	火	10:35～12:00	西川 律子	看護活動の実際3：コンサルテーション
6	11.25	火	10:35～12:00	西川 律子	看護活動の実際4：看護師のメンタルヘルスの支援
7	11.27	木	10:35～12:00	尾崎 恭子	術後せん妄
8	12.10	水	9:00～10:25	山内 典子	試験

〔キャリア発達論 〕

科目責任者 吉田 澄恵
 科目担当者 佐藤 紀子、吉田 澄恵、草柳かほる、
 山内 英樹、川野 良子
 (医学部)岡田みどり、矢口 有乃、
 土田 友章、徳重 克年、齋藤加代子

科目の目的

キャリアを「生涯を通しての人の生き方」と定義し、看護学を学ぶことを選択した成人として、自己のキャリアを考え続ける基本的態度を身につける。合わせて、看護専門職者を目指すものとして、組織の中で調和しながら変革を推進し職業を継続するための基礎的な知識を学ぶ。

4年次の目的

4年間の学士課程における学習および、東京女子医科大学における医療人の養成のビジョン、大学院教育へのつながりを知り、自己のキャリアのみならず、看護職一人ひとりの多様なキャリアと統合して理解する。また、社会・組織に働きかける看護職について、看護管理の視点から理解するとともに、チーム医療と実践者としての倫理的態度について、演習・実習を組み入れながら学習する。

到達目標

1. 看護職の生涯発達について、看護職のキャリアの多様性、東京女子医科大学における医療人養成、看護学と看護実践の関連、看護職生涯発達学における研究を知ることから考え、看護職一人ひとりのキャリアについての自己の考えを述べるができる。
2. 社会・組織に働きかける看護職について知り、看護実践の場における看護管理について、自分の意見を述べるができる。
3. 臨床倫理、チーム医療に関する医学部協働教育において、考えを発展させ自分の意見を述べるができる。

大項目	中項目	小項目
・看護職の生涯発達	1. 看護職のキャリアとその支援	1) 看護職のキャリア 2) 【自校教育】東京女子医科大学における医療人の養成 3) 看護学と看護実践 4) 看護職生涯発達学における研究
・看護管理	1. 社会・組織に働きかける看護職	1) 看護職と社会 2) キャリア発達とキャリア開発 3) チェンジングエージェント 4) 看護管理者としてのビジョンと実践 5) 看護管理実習
・協働の基礎	1. チーム医療における協働	1) 【協働教育】生命倫理ワークショップ 2) 【協働教育】チーム医療の基礎 3) 【協働教育】患者・家族の体験

評価方法：授業・演習・実習への出席と参加態度、レポート等

教科書

系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実際[1]看護管理 9版 医学書院 2006

参考図書

佐藤紀子 変革期の婦長学 医学書院 1998

佐藤紀子 看護師の臨床の『知』 医学書院 2007
 - 看護職生涯発達学の視点から -

ダニエルF．チャンプリス．浅野裕子訳
 ケアの向こう側
 看護職が直面する道徳的・倫理的矛盾 日本看護協会出版会 2002

平井さよ子 改訂版 看護職のキャリア開発
 転換期のヒューマンリソースマネジメント 日本看護協会出版会 2009

<講義スケジュール>

1	4.10	木	10:35~12:00	吉田 澄恵	ガイダンス
2	4.18	金	9:00~10:25	佐藤 紀子	看護職のキャリア
3	4.21	月	10:35~12:00	吉田 澄恵	看護職と社会
4	6.21	土	9:00~10:25	佐藤・吉田・草柳 山内・岡田・矢口・土田	早稲田大学・医学部・看護学部 合同生命倫理ワークショップ
5	6.21	土	10:35~12:00	佐藤・吉田・草柳 山内・岡田・矢口・土田	早稲田大学・医学部・看護学部 合同生命倫理ワークショップ
6	9.10	水	13:00~14:25	佐藤 紀子	キャリア発達とキャリア開発
7	9.11	木	13:00~14:25	吉田 澄恵	看護学と看護実践
8	9.18	木	13:00~14:25	山内 英樹	チェンジングエージェント
9*	10. 9	木	9:00~10:25	佐藤・吉田	看護管理学演習
10*	10. 9	木	10:35~12:00	佐藤・吉田	看護管理学演習
9*	10.16	木	9:00~10:25	佐藤・吉田	看護管理学演習
10*	10.16	木	10:35~12:00	佐藤・吉田	看護管理学演習
9*	10.20	月	9:00~10:25	佐藤・吉田	看護管理学演習
10*	10.20	月	10:35~12:00	佐藤・吉田	看護管理学演習
11	10.27	月	13:00~14:25	佐藤・吉田 _{*1} 佐藤・吉田 _{*2}	チーム医療の基礎[協働教育] 患者医療者関係の基礎[協働教育]
12	10.27	月	14:35~16:00	佐藤・吉田 _{*1} 佐藤・吉田 _{*2}	チーム医療の基礎[協働教育] 患者医療者関係の基礎[協働教育]
13	10.28	火	10:35~12:00	佐藤 紀子	[自校教育]東京女子医科大学における医療人の養成
14	11.10	月	9:00~10:25	川野 良子	看護管理者としてのビジョンと実践
15	11.10	月	10:35~12:00	佐藤・吉田	看護職生涯発達学の研究

*1 徳重克年

*2 齋藤加代子、岡田みどり

〔卒業論文〕

科目責任者 日沼 千尋
 科目担当者 荒井 純子、飯岡由紀子、小川久貴子、佐藤 紀子、田中美恵子、
 日沼 千尋、水野 敏子、守屋 治代、柳 修平、伊東 栄子、
 尾崎 恭子、金子真理子、菊池 昭江、神山 暢夫、近藤 暁子、
 諏訪 茂樹、関森みゆき、中田 晴美、原 三紀子、松寄 英士、
 吉田 澄恵、青木 雅子、犬飼かおり、奥野 順子、加藤 京里、
 草柳かおる、見城 道子、小山 達也、坂井 志麻、竹内 道子、
 服部真理子、濱田 由紀、原 美鈴、原田 通予、宮内 清子、
 天野 陽子、飯塚あつ子、異儀田はづき、小林 礼実、櫻田 章子、
 潮田千寿子、清水 信輔、鈴木香緒理、鈴木小弥香、田幡 純子、
 那須実千代、成澤 明、原沢のぞみ、三浦美奈子、峯川美弥子、
 山内 英樹、渡邊 賢治、渡辺 昌子

目的

各自のこれまでの看護学の学びの中で究明すべき課題を見出し、その課題に関連深い専門分野をもつ教員の指導のもとに、課題の探究に取り組む。その成果を報告するまでのプロセスを通して、生涯にわたり継続して看護の専門性を高めていくための各自の展望を一層深く意識する機会とする。

到達目標

1. 看護学および関連領域の関心をもったテーマについて、既に明らかになっていること及び課題について述べることができる。
2. 1を踏まえて、各自が取り組む論文テーマを焦点化することができる。
3. これまでに学習した経験をふまえて文献検討や、統合実習で取り組んだ課題を究明するために事例検討等を行い、深められた成果について論文としてまとめ報告することができる。

大項目	中項目	小項目
課題選定	探究分野の決定	現在までの学習の振り返り 関心テーマの抽出 課題の発見
課題探究	論文テーマの探究	事実の観察・確認 事実の解釈・分析
論文作成	論文作成	成果の整理 成果の記述

学習方法

- ・ 論文作成の課題抽出・探究・論文作成にあたっては、担当教員の助言を受けて進める。
- ・ 卒業論文の執筆要項等は、卒業論文オリエンテーション時の資料を参照のこと。
- ・ 卒業論文の提出日時：2014年7月28日（月）13時までに学務課へ提出。

評価方法

課題への取り組みおよび論文内容により総合的に行う。

参考図書

各担当教員がその都度適宜提示する。

<講義スケジュール>

1	2014.4.18	金	14:35~16:00	日沼千尋 _他 *	 <p>探求分野の決定 論文テーマの探求 論文作成</p>
2	4.18	金	16:10~17:35	日沼千尋 _他 *	
3	4.23	水	16:10~17:35	日沼千尋 _他 *	
4	4.25	金	14:35~16:00	日沼千尋 _他 *	
5	4.25	金	16:10~17:35	日沼千尋 _他 *	
6	7.22	火	13:00~14:25	日沼千尋 _他 *	
7	7.22	火	14:35~16:00	日沼千尋 _他 *	
8	7.22	火	16:10~17:35	日沼千尋 _他 *	
9	7.23	水	13:00~14:25	日沼千尋 _他 *	
10	7.23	水	14:35~16:00	日沼千尋 _他 *	
11	7.24	木	13:00~14:25	日沼千尋 _他 *	
12	7.24	木	14:35~16:00	日沼千尋 _他 *	
13	7.25	金	13:00~14:25	日沼千尋 _他 *	
14	7.25	金	14:35~16:00	日沼千尋 _他 *	
15	7.25	金	16:10~17:35	日沼千尋 _他 *	

*科目担当者を参照

〔国際看護〕(選択科目)

科目責任者：田中美恵子

科目担当者：田中美恵子、近藤 暁子

目的

国際看護に関する知識を深め、国内において看護ニーズを持つ様々な文化背景の人々への理解を深め、適切な看護を提供する上で、看護職者に必要とされる基本的な概念の理解と国際的視点について学ぶ。

到達目標

1. 国際看護の理念について説明できる。
2. 国際協力や国際保健協力活動のありかたについて考えることができる。
3. 世界の看護の動向を理解し、今後の課題について考えることができる。
4. さまざまな文化背景や状況にある人々の看護を考えることができる。
5. 諸外国の看護教育制度や保険医療制度の特徴を理解し、健康問題について考えることができる。
6. 諸外国での研修を通して国際的な視点で看護を考えることができる。

大項目	中項目	小項目
・国際看護	1. 看護とグローバル化 2. 国際看護学とは	1) グローバリゼーションの中の健康 2) グローバルヘルス、国際保健
・世界の看護の動向	1. 世界が直面している健康問題 2. 国際協力の世界的動向 3. 看護の動向	1) ミレニアム開発目標 2) 貧困と健康問題、先進国の健康問題 1) 人間の安全保障 2) 国際協力における日本の役割 1) 看護実践上の問題点 2) HIV/AIDS と看護 3) ジェンダーと看護
・多文化理解と看護	1. 異文化での暮らしと看護	1) 日常生活行動とマラリア感染の関係
・国際保健協力活動	1. 国際保健協力活動の実際	1) 国際協力の目的 2) パキスタンでの青年海外協力隊活動
・看護教育制度・ 保険医療制度	1. 国際比較	1) 日米の看護教育制度・保険医療制度の特徴 2) 米国における高度実践看護師制度
・海外研修	1. 多文化理解と看護	1) アルバーノ大学での研修

評価方法：出席状況、海外研修の参加度、レポート、発表

参考図書

南裕子監修 国際看護学 100人村教材編集委員会	グローバルナースングに向けての展開 世界がもし100人の村だったら ワークショップ版 第4版	中山書店 開発教育協会	2013 2014
近藤麻理著 田村やよひ 編 山崎朋美・當山紀子編	知って考えて実践する国際看護 国際看護学 第2版 ナースングアプローチ やさしく学べる国際保健・看護の基礎と実践	医学書院 メチガルフレンド社 桐書房	2011 2012 2012
守本とも子監修	国際看護への学際的アプローチ	PILAR PRESS	2009

<講義スケジュール>

1	2014.4.15	火	9:00～10:25	田中/近藤	オリエンテーション、国際看護総論
2	4.16	水	9:00～10:25	近藤 暁子	世界がもし100人の村だったら
3	4.16	水	10:35～12:00	駒形 朋子	「ただ違うだけ」～パキスタンで学んだ異文化での暮らしと看護
4	4.21	月	9:00～10:25	近藤 暁子	プレゼン準備
5	4.22	火	9:00～10:25	近藤 暁子	日米の看護教育制度の特徴
6	4.22	火	10:35～12:00	駒形 朋子	「暮らしぶり」の教え方～日常生活行動とマラリア感染の関係
7	4.23	水	9:00～10:25	近藤 麻理	HIV/AIDSと看護
8	4.23	水	10:35～12:00	近藤 麻理	ジェンダーと看護
9	4.25	金	10:35～12:00	近藤 暁子	日米の保険医療制度の特徴
10	4.25	金	13:00～14:25	田中/近藤	米国・世界の高度実践看護師(APN)制度 学生のプレゼン:世界が直面している健康問題、国際協力 国際看護師協会の活動
11	7.5	土	13:00～14:25	田中/近藤	(13:00-14:00 壮行会)
12	7.22	火	10:35～12:00	近藤 暁子	アルバーノ大学研修準備
13	7.25	金	10:35～12:00	近藤 暁子	アルバーノ大学研修準備
14					
15					
16					
17					
18					8月下旬～9月上旬(アルバーノ大学研修)*
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25	9.12	金	13:00～14:25	近藤 暁子	研修レポート作成・報告会準備
26	9.30	火	13:00～14:25	近藤 暁子	研修レポート作成・報告会準備
27	9.30	火	14:35～16:00	駒形 朋子	メコン川のほとりで心の健康を考える～ラオスの田舎の精神 障害のある人々の暮らし
28	10.15	水	9:00～10:25	近藤 暁子	研修レポート作成・報告会準備
29	10.18	土	10:35～12:00	田中/近藤	海外研修帰国報告会(次年度国際看護履修希望者も参加可能)
30	10.18	土	13:00～14:25	田中/近藤	最終評価

* 海外研修のアルバーノ大学参加希望者は英語Ⅳの該当科目を聴講すること

[先端医療における看護] (選択科目)

科目責任者 日沼 千尋

科目担当者 日沼 千尋、山中 源治、鈴木 孝司

目的

保健医療に工学的手法やテクノロジーを持ち込み、従来不可能であった最先端医療が次々と実現される時代になった。本科目は、幅広いテクノロジーと保健医療との融合によって誕生する最先端医療の現状と、新たな看護の役割について教授する。最先端医療技術が次々と生まれている研究所の見学も含め、大きく変わろうとしている最先端医療全体の流れと、診断・治療・手術・看護の将来について学習を深める。

到達目標

1. 最先端医療技術の動向に関して、具体的な例を挙げて説明できる。
2. 先端医療の進展に伴う看護の新しい役割について、自分の考えを述べることができる。

大項目	中項目	小項目
I 最先端医療の動向	1. 医療とテクノロジー 2. 医療安全 3. 手術室支援	1) 医療とテクノロジーの融合 1) 先端医療を医療安全に生かす 1) インテリジェント手術室 2) ロボット手術 3) 情報誘導手術 4) 医療機器開発
II 先端医療における看護マネジメント	1. 先端医療の進展と新しい看護の役割	1) 人工心臓装着と看護のマネジメント 2) 小児移植医療と看護のマネジメント 3) 先端医療と看護倫理
III 先端医療と看護の協働と実践	1. 先端医療との協働に基づく研究と実践	1) 先端医療との協働による看護の研究 2) 基礎研究から臨床実践へのトランスレーション

教科書

使用しない。

参考図書

必要に応じて、担当教員より講義の中で紹介する。

評価方法

試験、出席状況、学習態度について総合的に評価を行う。

<講義スケジュール>

1	11. 7	金	9:00～10:25	鈴木孝司	先端医療の動向と医療安全
2	11.17	月	13:00～14:25	鈴木孝司	インテリジェント手術室・ロボット手術・情報誘導手術・医療機器開発
3	11.17	月	14:35～16:00	鈴木孝司	先端医療最前線：TWIns探検ツアー
4	11.26	水	13:00～14:25	山中源治	人工心臓装着患者の看護マネジメント
5	11.28	金	13:00～14:25	日沼千尋	小児移植医療の最前線と看護マネジメント①
6	11.28	金	14:35～16:00	日沼千尋	小児移植医療の最前線と看護マネジメント②
7	11.28	金	16:10～17:35	日沼千尋	先端医療と看護の学際的協働の可能性
8	12. 4	木	10:35～12:00	日沼千尋	試験

養護教諭一種免許課程

〔教職実践演習（養護教諭）〕（選択科目）

科目責任者：松崎 英士

科目担当者：日沼 千尋、諏訪 茂樹

目的

大学4年間で学んだ学習知と養護実習等で得られた健康教育に関する指導力や生徒指導力の実践知との更なる統合を図り、使命感や責任感に裏打ちされた確かな実践的指導力を有する教員としての資質の構築とその確認を目的とする。

授業は演習形式で行われ、養護実習で直面したさまざまなテ - マや養護教諭に求められる役割と責任に関して、実際の教育現場を想定し、学生自らが個人あるいはグループで内容を深め、児童・生徒を指導するためのロールプレイと討議、先輩教師からのコメントを通して学ぶ。

到達目標

養護教諭としての教育的実践力を構成する「社会性と対人関係能力」「児童・生徒理解と保健室経営力」「保健・健康教育に関する指導・教育力」を習得する。

大 項 目	中 項 目	小 項 目
・教職実践演習とは	1.教職実践演習の目的と意義	1.教職ポートフォリオに基づく自己評価・相互評価から自らの不足している実践力の理解
・養護実習における課題	養護実践力	1.養護教諭としての社会性と対人関係能力 2.児童・生徒理解と保健室経営 3.保健・健康教育に関する指導・教育力
・教諭を目指す者としての課題	教諭としての実践力	1.学校教育についての理解 2.教諭としての使命感や責任感、教育的愛情 3.生徒指導力

評価方法：授業態度、授業時間における発表およびレポート等により、教諭として最小限必要な資質能力が身に付いているかを確認し、単位認定を行う。

教科書

なし

参考図書

授業中に適時紹介

<講義スケジュール>

1	2014.9.10	水	10:35~12:00	松寄英士	オリエンテーション(自己の課題・困難体験・困難事例の振り返り、整理、事例提示準備)
2	9.11	木	14:35~16:00	松寄英士他*	生徒指導・健康相談における困難事例の整理と対応法の検討 1
3	9.11	木	16:10~17:35	松寄英士他*	生徒指導・健康相談における困難事例の整理と対応法の検討 2
4	9.12	金	14:35~16:00	松寄英士他*	生徒指導・健康相談における困難事例の整理と対応法の検討 3
5	9.12	金	16:10~17:35	松寄英士他*	生徒指導・健康相談における困難事例の整理と対応法の検討 4
6	9.18	木	14:35~16:00	松寄英士他*	困難事例と演習方法の発表
7	9.18	木	16:10~17:35	松寄英士他*	個人・グループによる困難事例の整理と対応法の検討 1
8	9.22	月	16:10~17:35	松寄英士他*	個人・グループによる困難事例の整理と対応法の検討 2
9	9.26	金	16:10~17:35	松寄英士他*	個人・グループによる困難事例の整理と対応法の検討 3
10	9.30	火	16:10~17:35	松寄英士他*	個人・グループによる困難事例の整理と対応法の検討 4
11	10. 3	金	16:10~17:35	松寄英士他*	個人・グループによる困難事例の整理と対応法の検討 5
12	10. 6	月	16:10~17:35	松寄英士他*	発表のための準備 1
13	10. 7	火	16:10~17:35	松寄英士他*	発表のための準備 2
14	10.16	木	14:35~16:00	松寄英士他*	発表(ロールプレイなど)・討議・講評
15	10.16	木	16:10~17:35	松寄英士他*	発表(ロールプレイなど)・討議・講評

*日沼 千尋、諏訪 茂樹

|

〔学校保健管理論〕(選択科目)

科目責任者 千葉 まき子

科目担当者 千葉 まき子

目的

学校における保健管理の重要性を理解し、その実際について演習などを通して学ぶ。

到達目標

1. 学校における保健管理と保健教育について理解し、学校組織の中での養護教諭の活動を説明できる。
2. 養護教諭の役割・機能を理解し、学校における健康管理について説明できる。
3. 児童生徒が学校で安全に過ごすための対策、教育について説明できる。

大項目	中項目	小項目
・学校保健管理の概 念	1. 学校保健管理とは	1) 学校における保健管理と保健教育および組織活動との相互関係 2) 学校保健行政
	2. 学校保健管理の内容と養護教諭	1) 学校における保健管理の内容 2) 学校保健管理と養護教諭の職務との関連
・学校保健管理の実 際	1. 学校保健計画と保健室経営	1) 学校保健計画作成 2) 保健室経営 3) 保健室の管理と整備
	2. 健康観察と健康診断	1) 健康観察記録用紙の作成と活用 2) 健康診断の計画立案
	3. 児童生徒の健康管理と指導	1) 児童生徒の健康課題における管理 2) 指導に係わる養護教諭の役割 3) 指導案の作成
	4. 健康相談	1) 健康相談(教育相談) 2) 教職員の心身の健康状況と健康づくり
	5. 学校保健に関する文書	1) 保健に関する各種文書の種類とその記載方法
	6. 学校保健管理に係わる人々	1) 学校保健管理に係わる関係職員の職務と連携のあり方
	7. 学校における安全管理	1) 事故・災害の現状と安全教育の実際 2) 安全管理の実際 3) 救急処置
	8. 学校における環境衛生と管理	1) 学校環境衛生の考え方と関係法令 2) 学校環境衛生の実際 (1) 学校環境衛生の規準に伴う検査 (2) 環境衛生活動における日常点検と処置

評価方法：試験および学習態度やレポートの内容などを総合評価

教科書

教育養成系大学 保健協議会 / 編	学校保健ハンドブック 第5次改訂	ぎょうせい	2009
教育科学研究会 藤田和也 編	保健室と養護教諭	国土社	2008

参考図書

徳山美智子他 編著	改訂 学校保健安全法に対応した学校保健 ヘルスプロモーションの視点と教職員の役割の明確化	東山書房	2009
日本学校保健会 編	児童生徒の健康診断マニュアル(改訂版)	日本学校保健会	2006
学校健康教育法令 研究会 監修	学校保健・学校安全法令必携 第7次改訂	ぎょうせい	2009
日本学校保健会 編	学校保健の動向(平成25年版)	日本学校保健会	2012
日本学校保健会 編	保健室経営計画作成の手引き(平成21年版)	日本学校保健会	2009

<講義スケジュール>

1	2014.4.15	火	13:00~14:25	千葉まき子	学校保健管理の概念
2	4.15	火	14:35~16:00	千葉まき子	学校保健計画と保健室経営
3	4.17	木	13:00~14:25	千葉まき子	健康観察と健康診断
4	4.17	木	14:35~16:00	千葉まき子	児童生徒の健康管理と指導
5	4.21	月	13:00~14:25	千葉まき子	健康相談
6	4.21	月	14:35~16:00	千葉まき子	学校保健に関する文書 学校における安全管理
7	4.23	水	13:00~14:25	千葉まき子	学校における環境衛生と管理
8	4.23	水	14:35~16:00	千葉まき子	試験

〔養護実習〕(選択科目)

科目責任者 日沼 千尋

科目担当者 日沼 千尋、松寄 英士、諏訪 茂樹、
関森みゆき、奥野 順子、青木 雅子、
櫻田 章子

目的

養護教諭課程の講義や演習等を通して習得した知識と技術を、学校教育現場で実践・応用することを通して、学校保健の専門家としての責任を自覚し、学校保健のあり方を探求するとともに養護教諭の果たす役割について多角的に学習する。

到達目標

1. 教育活動の一環である学校保健活動における養護教諭の役割、および保健室のあり方について実践を通して理解する。
2. 児童・生徒の心身の成長・発達と学校生活の状況、および健康状態を理解する。
3. 児童・生徒の保健・養護上の問題に対して、個別のおよび組織的に適切に取り組む能力を養う。
4. 児童・生徒に関わる教育者としてふさわしい態度を養う。

大項目	中項目	小項目
.学校保健活動の理解	1. 養護教諭の役割の理解 2. 保健室のあり方の理解	1) 健康診断 2) 学校環境衛生 3) 感染症の予防 4) 救急処置および救急体制の整備 5) 教職員との連携 1) 保健室の経営方針 2) 保健室の経営計画 3) 保健室の整備 4) 保健室経営の評価 5) 個別的保健指導
.児童・生徒の状況の理解	1. 学校保健情報の把握	1) 健康観察 2) 健康診断 3) 保健調査 4) 家庭生活 5) 地域社会
.学校保健活動の実践	1. 保健室における健康相談 2. 保健教育 3. 保健組織活動	1) 保健室来室理由と児への対応 2) 事後措置 1) 保健指導 2) 保健学習 1) 学校保健計画 2) 学校安全計画 3) 地域の関連機関との連携 4) 保健組織活動の運営 5) 児童・生徒自治活動の指導

大項目	中項目	小項目
・自己の能力の発展	1. 教育者としてふさわしい態度	1) 児童・生徒の人格尊重 2) 課題の探求 3) 自己能力の判断と指導者の活用 4) 教育者としての内省

評価方法：出席状況、実習内容（事前学習・実習校における実習・実習のまとめ）記録内容、実習態度（実習への取り組み、主体性、計画性、責任感など）により総合的に評価する。

教科書

大谷尚子 中桐佐智子編著 養護実習ハンドブック 東山書房 2007

参考図書

適時紹介

< 実習スケジュール >

	日時	学習内容	備考	
【事前学習】	1	4月10日(木) 9:00~10:25	実習オリエンテーション	
			実習校事前訪問	
	2	4月11日(金) 9:00~10:25	[事前準備] 1) 実習校によるオリエンテーション 2) 実習校に関する調査 [実習に必要な技術の演習] 1) 定期健康診断の検査項目と検査方法 2) 救急処置 [模擬授業準備]	個別に学生自身が調整する * 自主的・計画的に実習の事前準備に取り組む * 必要時、教員に指導を要請する
	3	4月11日(金) 10:35~12:00		
	4	4月11日(金) 13:00~14:25		
	5	4月11日(金) 14:35~16:00		
	6	4月11日(金) 16:10~17:35		
	7	4月12日(土) 9:00~10:25		
	8	4月12日(土) 10:35~12:00		
	9	4月12日(土) 13:00~14:25		
	10	4月12日(土) 14:35~16:00		
	11	4月12日(土) 16:10~17:35		
	12	4月14日(月) 9:00~10:25		
	13	4月14日(月) 10:35~12:00		
	14	4月16日(水) 13:00~14:25		
	15	4月16日(水) 14:35~16:00		
	16	4月16日(水) 16:10~17:35		
	17	4月22日(火) 13:00~14:25		
	18	4月22日(火) 14:35~16:00		
	19	4月22日(火) 16:10~17:35		
	20	4月24日(木) 13:00~14:25		
	21	4月24日(木) 14:35~16:00		
22	4月24日(木) 16:10~17:35			
【実習】	5月7日(水)~6月27日(金)の内、連続して3週間	実習校における養護実習	実習スケジュールは実習校の指示に従う	
【実習のまとめ】	23	9月8日(月) 16:10~17:35	実習報告会準備・資料作成	実習報告会の準備を行う
	24	9月13日(土) 9:00~10:25		
	25	9月13日(土) 10:35~12:00		
	26	9月13日(土) 13:00~14:25		
	27	9月13日(土) 14:35~16:00		
	28	9月13日(土) 16:10~17:35		
	29	9月20日(土) 9:00~10:25	[実習報告会]	123 教室
	30	9月20日(土) 10:35~12:00		

〔日本国憲法〕

科目責任者 東 裕

目的

憲法は、「統治機構」と「人権」の二つの部分から成る。この二つは相互に密接に結びついている。すなわち、憲法は国民の人権を保障することに主眼があり、そのために権力分立を基本とする統治機構がつけられているのであり、権力分立に基づく統治機構は人権保障に奉仕する。権力の濫用が防止され、国民の権利・自由が保障されることで、「人間の尊厳」が確保される。これが憲法の構造であり目的である。そして、憲法は国家という基礎の上に成立し、平和が確保された状況で初めて正常に機能する。この憲法の基本的な考えをまず理解し、その上で、成立当時とは大きく異なる政治・経済・社会・国際関係の中に置かれている日本国憲法の抱える問題点を考える。それがこの講義の目的である。

到達目標

1. 憲法とはどのような法であるかを説明できる。
2. 日本国憲法の構造を説明できる。
3. 日本国憲法と大日本帝国憲法（明治憲法）との違いを説明できる。
4. 日本国憲法の成立過程を説明できる。
5. 日本国憲法の基本原理とその相互関係を説明できる。
6. 日本国憲法の問題点を説明できる。

大項目	中項目	小項目
・憲法総論	1. 憲法の内容 2. 近代立憲主義憲法 3. 現代立憲主義憲法	1) 形式的意味の憲法・実質的意味の憲法 2) 近代立憲主義憲法の成立と特質 3) 現代立憲主義憲法への変容とその特質
・人権総論	1. 人権の内容 2. 近代の人権 3. 現代の人権	1) 「人権」とは 2) 人権宣言の歴史 3) 「新しい人権」の登場
・憲法の基本原理	1. 国民主権 2. 平和主義 3. 基本的人権尊重主義	1) 国民主権の意味 2) 日本国憲法の平和主義の特徴 3) 日本国憲法の人権規定
・国の統治機構	1. 権力分立 2. 議院内閣制 3. 司法権の独立	1) 権力分立の意義と目的 2) 国会と内閣の関係はどうか 3) 司法権の独立とは何か
・平等権	1. 法の下での平等 2. 平等の意義 3. 平等権の内容	1) 自由と平等 2) 平等と不平等 3) 平等権の一般原則（憲法 14 条 1 項）
・自由権	1. 精神的自由権 2. 経済的自由権 3. 人身の自由	1) 内面的自由権・外面的自由権 2) 経済的自由権と公共の福祉 3) 適正手続の保障

大項目	中項目	小項目
・参政権と請求権	1. 参政権 3. 国家賠償請求権 3. 裁判を受ける権利	1) 選挙権・被選挙権 2) 国家賠償請求権(憲法17条)の意味 3) 裁判を受ける権利(憲法32条)の意味
・社会権	1. 生存権 2. 教育権 3. 勤労権と労働基本権	1) 憲法25条の法的性格 2) 教育権(憲法26条)とは 3) 労働三権とは何か
・国会	1. 国会の地位 2. 国会の組織と活動 3. 国会の権能	1) 国権の最高機関・立法機関・国民代表機関 2) 二院制・選挙制度・会期 3) 国会の権能・議院の権能
・内閣	1. 内閣の組織 2. 内閣の権能 3. 議院内閣制	1) 内閣総理大臣・国务大臣 2) 行政権とは 3) 議院内閣制と大統領制の違い
・裁判所	1. 司法権の意義 2. 裁判所の組織と権能 3. 司法権の独立	1) 司法権の意義と限界 2) 最高裁判所・下級裁判所・裁判員制度 3) 司法権の独立の意義・裁判官の身分保障
・財政	1. 財政処理の基本原則 2. 予算の種類 3. 公金支出の禁止	1) 財政民主主義・租税法律主義 2) 本予算・補正予算・暫定予算 3) 公金支出の禁止対象
・地方自治	1. 地方自治の本旨 2. 地方公共団体の意義と機関 3. 条例制定権	1) 団体自治と住民自治 2) 普通地方公共団体・特別地方公共団体 3) 条例の意義・条例制定権の限界
・憲法保障	1. 最高法規性 2. 憲法改正手続き 3. 違憲審査制	1) 憲法保障制度とは何か 2) 憲法改正の手続き・改正の限界 3) 違憲審査制の法的性格・違憲審査の対象
・試験	1. 到達目標を踏まえた論題 2. 憲法学の基本概念の説明 3. 重要条文の知識	1) 到達目標を踏まえた論述式問題 2) 憲法学の基本概念のいくつかを説明する問題 3) 日本国憲法の重要条文の文言を問う問題

成績評価の方法：
試験の成績で評価する。

教科書：
抱喜久雄・野畑健太郎編『憲法学事始 - はじめて学ぶ人のために - 』（一学舎・2009年）

参考図書：
必要に応じて講義の中で紹介する。

<講義スケジュール>

1	2014. 4.12	土	9:00~10:25	東 裕	憲法総論
2	4.12	土	10:35~12:00	東 裕	人権総論
3	4.26	土	9:00~10:25	東 裕	憲法の基本原理
4	4.26	土	10:35~12:00	東 裕	国の統治機構
5	5.10	土	9:00~10:25	東 裕	平等権
6	5.10	土	10:35~12:00	東 裕	自由権
7	5.24	土	9:00~10:25	東 裕	参政権と請求権
8	5.24	土	10:35~12:00	東 裕	社会権
9	5.31	土	9:00~10:25	東 裕	国会
10	5.31	土	10:35~12:00	東 裕	内閣
11	6. 7	土	9:00~10:25	東 裕	裁判所
12	6. 7	土	10:35~12:00	東 裕	財政
13	7. 5	土	9:00~10:25	東 裕	地方自治
14	7. 5	土	10:35~12:00	東 裕	憲法保障
15	7.19	土	9:00~10:25	東 裕	試験

授業担当教員一覧

看護学部第4学年授業担当教員

[専任教員]

人文社会科学系

心理学 准教授 松寄 英士
 社会学 准教授 諏訪 茂樹
 英語 教授 木村みどり

基礎科学系

生理学 准教授 神山 暢夫
 生化学 准教授 伊東 栄子

臨床医学系

外科学 准教授 尾崎 恭子
 内科学 教授 荒井 純子

看護学系

基礎看護学 教授 守屋 治代
 准教授 菊池 昭江
 講師 見城 道子
 講師 加藤 京里
 助教 天野 陽子

成人看護学 教授 飯岡由紀子
 准教授 金子真理子
 准教授 近藤 暁子
 准教授 原 三紀子
 講師 原 美鈴
 助教 三浦美奈子
 助教 小林 礼実
 助教 鈴木香緒理
 助教 那須実千代
 助教 峯川美弥子

看護職生涯発達学 教授 佐藤 紀子

老年看護学 准教授 吉田 澄恵
 教授 水野 敏子
 講師 坂井 志麻
 助教 原沢のぞみ
 助教 成澤 明

小児看護学 助教 渡邊 賢治
 教授 日沼 千尋
 准教授 関森みゆき

講師 奥野 順子
 講師 青木 雅子
 助教 櫻田 章子

母性看護学 教授 小川久貴子
 講師 竹内 道子
 講師 原田 通予

講師 宮内 清子
 助教 田幡 純子
 助教 潮田千寿子

地域看護学 助教 鈴木小弥香
 教授 柳 修平
 准教授 中田 晴美

講師 服部真理子
 講師 犬飼かおり
 助教 清水 信輔
 助教 渡辺 昌子

精神看護学

教授 田中美恵子
 講師 濱田 由紀
 講師 小山 達也
 助教 異儀田はづき
 助教 飯塚あつ子
 講師 草柳かほる
 助教 山内 英樹

認定看護師教育センター

[兼任教員]

疫学

教授 山口 直人
 教授 岡本 高宏
 講師 佐藤 康仁
 准講師 清水 悟
 准講師 蔣池 勇太
 助教 清原 康介
 助教 福島 教照
 助教 古島 大資

医学特論

教授 齋藤加代子
 教授 上塚 芳郎
 教授 木林 和彦
 教授 菅野 仁

英語
国際関係論

講師 遠藤 美香
 教授 遠藤 弘良
 講師 塚原 高広
 助教 櫻井 美樹

リエゾン精神看護

臨床講師 山内 典子
 臨床講師 安田 妙子

キャリア発達論
先端医療における看護

講師 川野 良子
 臨床講師 山中 源治
 助教 鈴木 孝司

[兼任教員]

女性論
人間援助論
医療行政・関係法規

講師 新井 浩子
 講師 福井みどり
 講師 西田 幸典
 講師 和泉澤千恵

文化人類学
人間生活と法
コミュニケーション
の理論と実際

講師 穴戸 佳織
 講師 東 裕
 講師 川上 華代
 講師 大島みどり

パフォーマンス芸術論
リエゾン精神看護
学校保健管理論

講師 中川 聖子
 講師 西川 律子
 講師 千葉まき子

[医学部・看護学部協働教育 担当教員]

化学
遺伝子医療センター
救命救急センター
消化器内科学
非常勤講師

教授 岡田みどり
 教授 齋藤加代子
 准教授 矢口 有乃
 講師 徳重 克年
 土田 友章